



光華女子学園

環境報告書

平成26年度版



学校法人光華女子学園

Index

1. 建学の精神と環境教育 …01
2. 光華女子学園の概要 …02
3. 地域と連携した環境教育の実践 …03
4. エコキャンパスの推進 …04
 - ① 学園における電気エネルギー消費量
 - ② 学園におけるガスエネルギー消費量
 - ③ 学園における水道使用量
 - ④ 学園における
ガソリンエネルギー消費量
 - ⑤ 学園における軽油エネルギー消費量
 - ⑥ エコキャンパスを目指して
(KOKA エコアワード)
 - ⑦ 省エネルギーに向けた活動
 - ⑧ 廃棄物削減に向けた活動
 - ⑨ 太陽光発電
5. 平成 26 年度の環境教育、環境活動 …16
 - 幼稚園
 - ① ごみをコンパクトに…
 - ② どうしてゴミを分別するの?(年中児)
 - ③ お母さんたちによる
植樹と花栽培(年中児)
 - ④ 野菜の種・苗植え(年長児)
 - ⑤ 廃材を使った作品製作(年長児)
 - 小学校
 - ① ピオトープ学習
 - ② 桂川清掃活動
 - ③ フラワーポット作り・野菜作り
 - ④ 理科実験教室
 - ⑤ エコスクールへの取り組み
 - 中学校・高等学校
 - ① SPP 活動
 - ② SPP 講座の成果を発信
 - ③ 最後に ～SELF - Activity～
 - 大学・短期大学部
 - ① キャンパスの緑化活動
 - ② 伐採したケヤキの有効利用
(チーム西京極)
 - ③ 学長表彰・国際ソロプチミスト
日本財団からの感謝状
 - ④ 京都西ロータリークラブ主催
「学生環境サミット」への参加
6. 地域と連携した環境活動 …32
 - ① 竹の経・かぐやの夕べへの参画
 - ② 右京区民ふれあいフェスティバル
2014 への出展
 - ③ 地域と連携した大学環境教育の取組
 - ④ 夏期公開講座
「地域の環境問題」を開催
 - ⑤ 平成 26 年度右京区まちづくり
支援制度に採択
 - ⑥ 京都府立東陵高等学校との連携
 - ⑦ 災害ボランティア活動
 - ⑧ 桂川河川敷公園の清掃活動
 - ⑨ 女子大生による鹿肉普及活動の試み
京☆しかミーツ
7. 海外レポート …42
 - ① 沈みゆく島国 キリバス共和国
 - ② 拡大する砂漠 内モンゴル自治区

Message

1. 建学の精神と環境教育



NASA(米航空宇宙局)とNOAA(米海洋大気局)は、2014年の平均気温が1880年以降で最も高かったとする分析結果を発表しました。この結果を受けて、NASAは「要因の多くは二酸化炭素などの排出量が増えたことにある」としています。また、最新のIPCC(気候変動に関する政府間パネル)第5次評価報告書統合報告書によると、「地球温暖化の原因は、人間による影響が20世紀半ば以降に観測さ

れた温暖化の支配的な原因であった可能性が極めて高い」と指摘しています。近年、我が国においてもこれまで経験したことがないような猛暑や豪雨が続発しており、その多くは地球温暖化の影響であることは疑う余地がありません。

さて、光華女子学園は昭和14年、東本願寺の故大谷智子裏方(昭和天皇妃・香淳皇后の妹君)の「仏教精神に基づく女子教育の場」をとの願いによって設立された真宗大谷派の宗門関係学園です。校訓を「真実心」と掲げ、教育の基本を仏教、なかでも親鸞聖人が明らかにされた浄土真宗の教え、すなわち「生かされ生きていることの自覚」による人間形成に置いています。

ところで、2004年にノーベル平和賞を受賞されたケニア出身の環境保護活動家であるワンガリ・マータイ氏が世に広めた「もったいない(MOTTAINAI)運動」。この「もったい(勿体)」は、元来、仏教由来の用語です。「勿体ない」は、もともと「不都合である」、「かたじけない」などの意味で使用されていました。現在では、それらから転じて、一般的に、物の価値を十分に生かされておらず無駄になっている状態やそのような状態にしてしまう行為を戒める意味で使用されています。また、同じく仏教用語である「無我(むが)」は、現在では、「無我夢中」のように、「我を忘れる」という意味で用いられていますが、本来は、「自分が自然界の中の一つの構成要素にすぎない」という意味です。少し飛躍になるかもしれませんが、「無我」は「人間はあらゆるものから切り離しては存在できない」という意味に捉えることができるのではないのでしょうか。そして人間は、自然をコントロールするのではなく、自然に生かされているという、まさに浄土真宗の教えである「生かされ生きていることの自覚」こそが、我々人類が失いかけているものではないのでしょうか。

21世紀は環境配慮の時代といわれておりますが、このように仏教の世界では紀元前より環境との関わりを大切に考えてきたのです。そして、仏教精神に基づく女子教育を実践してきた光華女子学園だからこそ、実現可能な環境教育があると考えています。光華女子学園の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、大学院がひとつになって、エコキャンパスの実現に向けて、今後もより一層努力を続けてまいります。

光華女子学園 理事長 阿部敏行



2. 光華女子学園の概要

【沿革】

- 昭和14年09月15日 財団法人光華女子学園設立認可 光華高等女学校設置認可
- 15年04月01日 光華高等女学校開設
- 19年03月11日 光華女子専門学校開設 数学科、生物科、保健科を設置
- 20年03月29日 高女同窓会「激清会」発足
- 22年03月15日 女専同窓会「ふかみぐさ」発足
- 22年04月01日 学制改革により光華中学校開設（光華高女より）
- 22年10月10日 光華女子専門学校保健科を生活科に改称
- 23年04月01日 学制改革により光華高等学校開設（光華高女より）
- 25年04月01日 光華女子専門学校を光華女子短期大学に移行
文科、家政科を設置
- 26年02月28日 学校法人光華女子学園設立認可
- 29年04月17日 光華衣服専門学校開設
- 39年04月01日 光華女子大学開設 日本文学科、英米文学科を設置（短大文科を移行）
- 40年04月01日 光華幼稚園開設
- 43年04月01日 光華小学校開設
- 62年04月01日 短期大学、家政科に生活科学専攻と生活文化専攻を設置
- 平成元年11月15日 総裁大谷智子裏方選挙（83才）
- 03年04月01日 真宗文化研究所開設、情報教育センター開設
- 05年04月01日 短期大学、家政科を生活学科に改称
- 06年04月01日 大学、文学部に人間関係学科を開設
- 06年11月22日 光華衣服専門学校廃校
- 07年04月01日 短期大学、生活学科に4専攻を設置
- 09年04月01日 短期大学、生活学科に栄養専攻を設置
- 10年04月01日 光華女子大学大学院開設
文学研究科（修士課程）、日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻
を設置
- 12年04月01日 光華女子短期大学、生活学科を光華女子大学短期大学部
生活環境学科に改称
光華女子大学、日本文学科を日本語日本文学科に改称
英米文学科を英語英米文学科に改称
- 13年04月01日 光華女子大学大学院、光華女子大学、光華女子大学短期大学部、光
華高等学校、光華中学校を京都光華女子大学大学院、京都光華女子
大学、京都光華女子大学短期大学部、京都光華高等学校、京都光華
中学校へ校名変更
大学、文学部・人間関係学科を改組
人間関係学部・人間関係学科を設置
- 14年04月01日 短期大学部、栄養専攻、食生活専攻を改組、大学、人間関係学部人
間健康学科を設置
- 15年04月01日 大学、人間関係学部社会科学部を設置
- 16年04月01日 大学院に人間関係学研究科（修士課程）を設置
京都光華女子大学カウンセリングセンター（人間関係学研究科附属
施設）開設
- 17年04月01日 京都光華女子大学エクステンションセンター開設
- 18年04月01日 短期大学部、生活環境学科を改組、ライフデザイン学科を設置
ライフデザイン学科「地域総合科学科」適格認定
短期大学部にこども保育学科を設置
- 20年04月01日 大学、人間関係学部を人間科学部に改称
大学、英語英米文学科を国際英語学科に改称
大学、人間健康学科を健康栄養学科に改称
- 22年04月01日 大学、文学部、人間科学部を改組、人文学部、キャリア形成学部、
健康科学部を設置
人文学部に文学科、心理科を設置
キャリア形成学部キャリア形成科を設置
健康科学部に健康栄養学科を設置
- 23年04月01日 大学、健康科学部に看護科を設置
- 25年04月01日 大学、健康科学部健康栄養学科に健康スポーツ栄養専攻を開設
- 26年04月01日 大学、健康科学部に医療福祉学科（社会福祉専攻・言語聴覚専攻）、
心理科を開設大学院、人間関係学研究科を心理学研究科に改称
- 27年04月01日 大学院に看護学研究科を設置
短期大学部 こども保育学科を改組、大学、こども教育学部 こども
教育学科を設置

【学生・生徒・園児数（2014年5月1日 現在）】

大学院	11人
大学	1,475人
短期大学部	342人
高等学校	523人
中学校	146人
小学校	349人
幼稚園	277人
合計	3,123人

【教職員数（2014年5月1日 現在）】

区分	専任等	非常勤等	臨時等	合計
大学院・大学	86人	171人	21人	278人
短期大学部	20人	58人	5人	83人
高等学校	39人	25人	20人	84人
中学校	12人	6人	1人	19人
小学校	20人	1人	3人	24人
幼稚園	14人	2人	0人	16人
職員	76人	0人	2人	78人
合計	267人	263人	52人	582人

【キャンパス】

光華女子学園のメインキャンパスは、京都府京都市右京区にある西京極キャンパスです。西京極キャンパスには、国道9号線（五条通り）を挟み、北校地に大学院、大学、短期大学部、幼稚園が、南校地に高等学校、中学校、小学校が設置されています。西京極キャンパスのほか、大原野グラウンド・花の寺グラウンド（西京極キャンパスから車で17分）があり、体育の授業や地域への開放等を行っている運動施設があります。

◆校地面積（2014年5月1日 現在）

北校地	24,481.38㎡
南校地	18,823.00㎡
大原野グラウンド	14,308.00㎡
花の寺グラウンド	14,160.61㎡
合計	71,772.99㎡

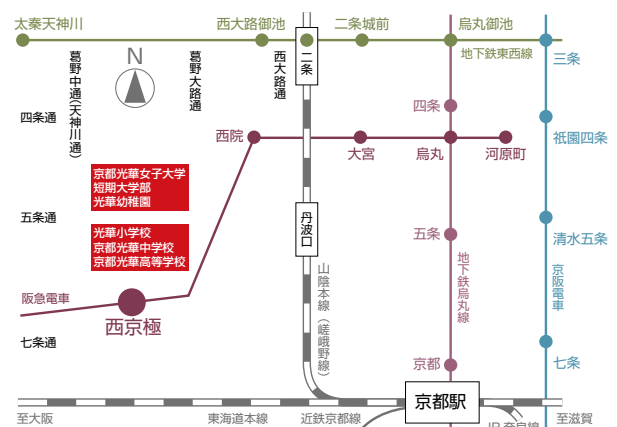
◆校舎面積（2014年5月1日 現在）

北校地	37,345㎡
南校地	23,092㎡
大原野グラウンド	436㎡
合計	60,873㎡

【所在地】

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38

最寄りの阪急京都線「西京極」駅から住宅街を抜け徒歩約7分





3. 地域と連携した環境教育の実践



平成26年は、西日本を中心に記録的な多雨・日照不足になりました。特に、8月の降水量は平年比301%となり、1946年の統計開始以来8月としては最も多くなりました。この豪雨は、本学のある右京区でも甚大な被害をもたらしました。そこで、今年度は本学からボランティア団体を派遣し、災害後の復旧活動に協力させていただきました。

このように、近年、学校教員の指導の下、生徒や学生が地域に赴き、地域の住民や行政をはじめとする団体と連携した環境教育が積極的に導入されるようになりました。地域のリアルな環境課題を学習者の成長に活かす取組です。本学でも、環境教育推進室（The

Environmental Education Office: 通称EEO）が発足する以前から、このような「地域連携型環境教育」が実施され、地域から期待される学園へと発展しつつあります。一方、この過程の中で、いくつかの課題も明らかになってきました。

一つ目の課題は、学園内で実施されている地域連携型環境教育が組織の中で十分に共有できていないことです。各校園の情報共有化は、EEOに課せられた大きな課題のひとつでもあります。この課題を解決するためには、組織内において環境教育に対する意識レベルを一定水準以上に統一する必要があります。そして、この意識レベルの統一は、第三者機関から定期的に認証評価を受けることで解決できる可能性があります。二つ目の課題は、環境に関する事業の企画・運営に気を取られ、各事業が短絡的なイベントになりがちな点です。この課題を解決するためには、環境教育をなぜ実施するのか、学習者に何を学ばせたいのかを常に意識しながら、指導者のモチベーションを維持しつづけることが必要になります。

このような背景を受けて、今年度から小学校では、FEE（国際環境教育基金）から評価を受けるための準備が始まりました。また、大学および短期大学部では地域連携型事業を一部授業化することで、継続的な取組が可能になりつつあります。これらの内容の他、本環境報告書では、光華女子学園各校園の継続的な環境活動や省エネ活動の実績、平成26年度の特筆すべき環境教育・環境活動の代表的な事例をご紹介します。本報告書により、皆さまのご理解を深めていただければ幸いです。

京都光華女子大学

地域連携推進センター長 環境教育推進室長

キャリア形成学部 准教授 高野 拓樹



4. エコキャンパス の推進

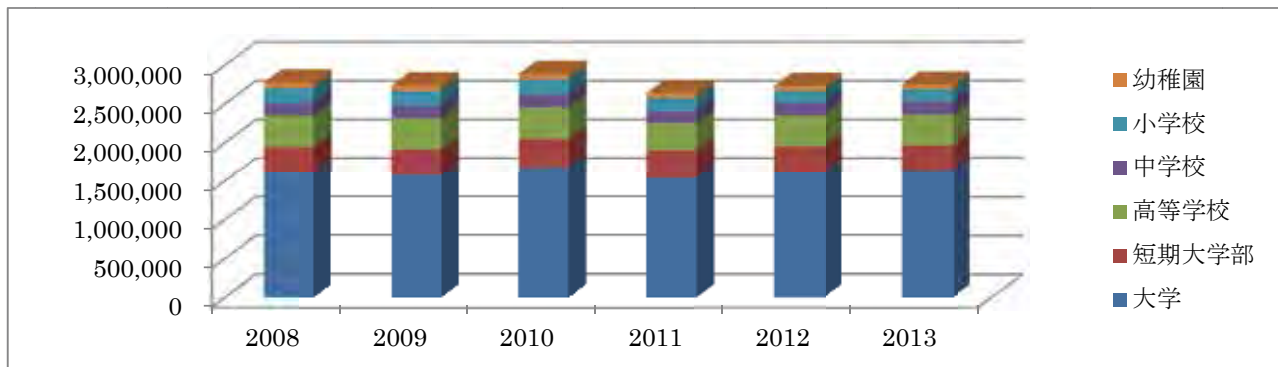


エコキャンパスの推進

① 学園における電気エネルギー消費量

電気使用量については、過去6年間の総使用量で見れば、ほぼ横ばい状態となっています。大学においては2009年に学園創立70周年を迎え、その記念として新たに「聞光館」を建設し、校舎数が増えましたが高効率型照明器具の導入とともに、学園として節電対策を掲げ、クールビズ・ウォームビズ等を実施し、全教職員が一丸となり取り組んでいます。

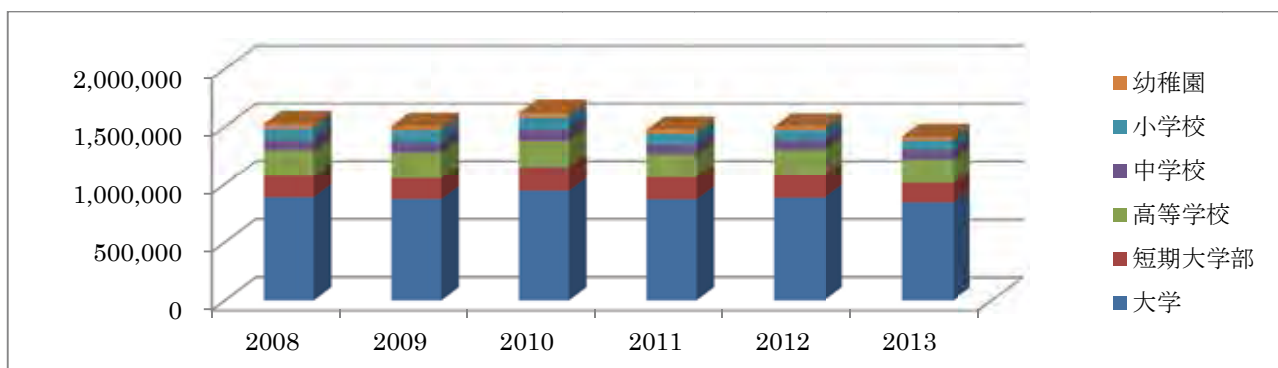
① 電気使用量



単位：kwh/年

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
大 学	1,613,036	1,580,338	1,678,893	1,551,991	1,603,814	1,638,618
短期大学部	327,929	334,115	369,856	346,392	351,950	327,233
高 等 学 校	410,524	397,724	406,507	358,079	395,788	400,530
中 学 校	159,412	165,209	168,469	148,398	165,030	166,987
小 学 校	192,850	193,188	198,107	174,506	155,623	157,491
幼 稚 園	70,112	68,378	65,534	58,903	58,353	57,556
合 計	2,773,863	2,738,952	2,887,366	2,638,269	2,730,558	2,748,415

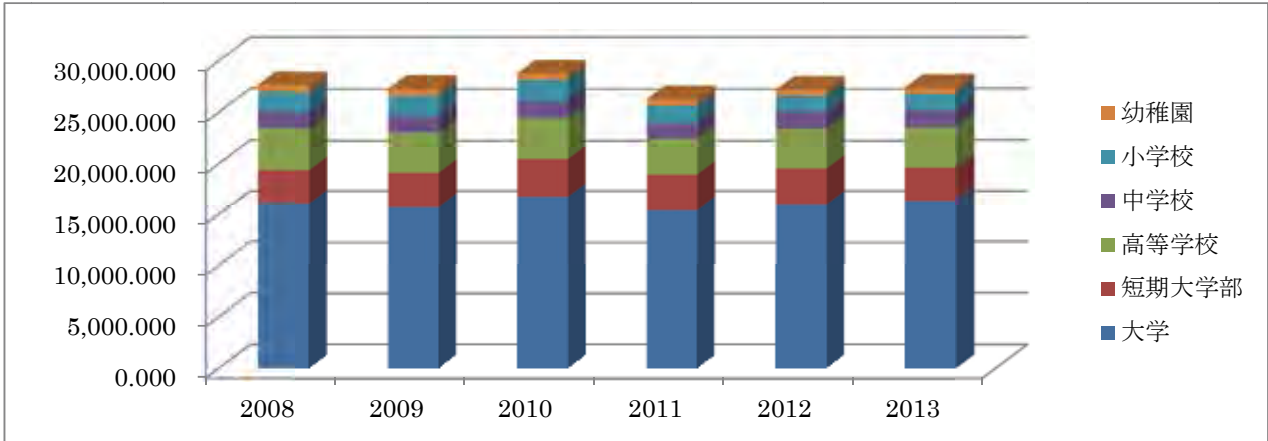
② 電気使用によるCO₂排出量



単位：kg-CO₂/年

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
大 学	887,170	869,186	941,859	867,563	882,098	842,250
短期大学部	180,361	183,763	207,489	193,633	193,573	168,198
高 等 学 校	225,788	218,748	228,050	200,166	217,683	205,872
中 学 校	87,677	90,865	94,511	82,954	90,767	85,831
小 学 校	106,068	106,253	111,138	97,549	85,593	80,950
幼 稚 園	38,562	37,608	36,765	32,927	32,094	29,584
合 計	1,525,625	1,506,424	1,619,812	1,474,792	1,501,808	1,412,685

③ 電気使用量による熱量換算



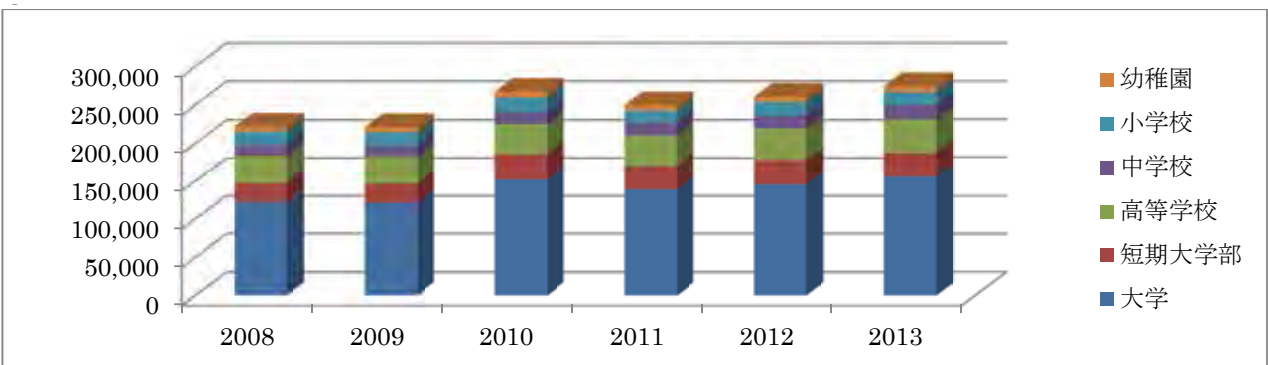
単位：MJ/年

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
大 学	16,081,969	15,755,970	16,738,563	15,473,350	15,990,026	16,337,168
短期大学部	3,269,452	3,331,127	3,687,464	3,453,528	3,508,942	3,262,542
高 等 学 校	4,092,924	3,965,308	4,052,875	3,570,048	3,946,006	3,993,320
中 学 校	1,589,338	1,647,134	1,679,636	1,479,528	1,645,349	1,664,875
小 学 校	1,922,715	1,926,084	1,975,127	1,739,825	1,551,561	1,570,199
幼 稚 園	699,017	681,729	653,374	587,263	581,779	573,838
合 計	27,655,415	27,307,352	28,787,039	26,303,542	27,223,663	27,401,944

② 学園におけるガスエネルギー消費量

ガス使用量については、2009年から2010年にかけて増加しています。大きな要因としては、計画的に改修している空調機を電気式からガス式に変更したことや大学においては2009年に70周年棟「聞光館」を建設し、館内の空調機をガス式空調機にしたこと等が挙げられます。なお、採用したガス式空調機については、稼働時に自家発電する機能を兼ね備えており、館内の一部の電力を賅っています。

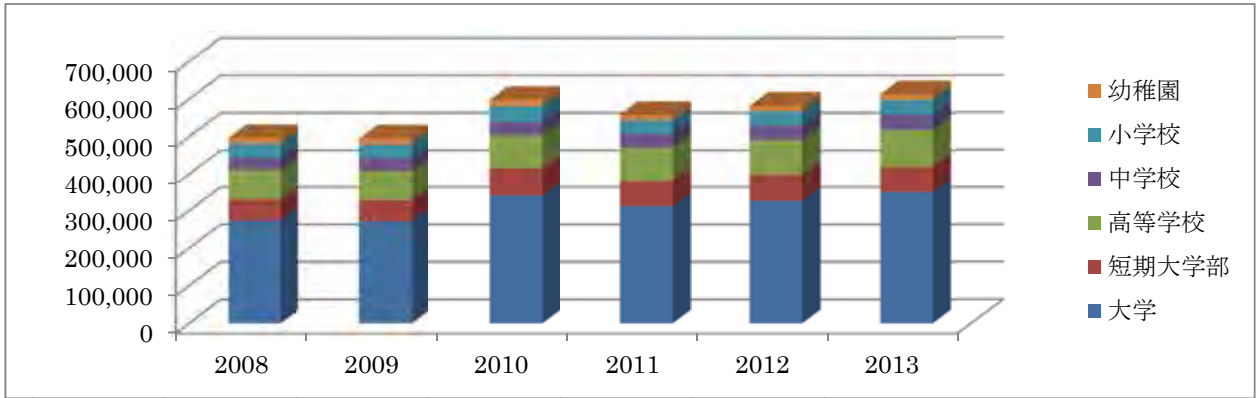
① ガス使用量



単位：m³/年

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
大 学	122,632	121,321	152,463	139,593	146,121	156,511
短期大学部	24,931	25,650	33,587	31,155	32,066	31,255
高 等 学 校	36,582	35,764	39,021	40,059	41,783	43,930
中 学 校	14,205	14,856	16,172	16,705	17,422	18,315
小 学 校	17,185	17,372	19,017	15,771	16,429	17,273
幼 稚 園	6,691	6,637	7,326	6,498	6,750	7,083
合 計	222,226	221,600	267,586	249,781	260,571	274,367

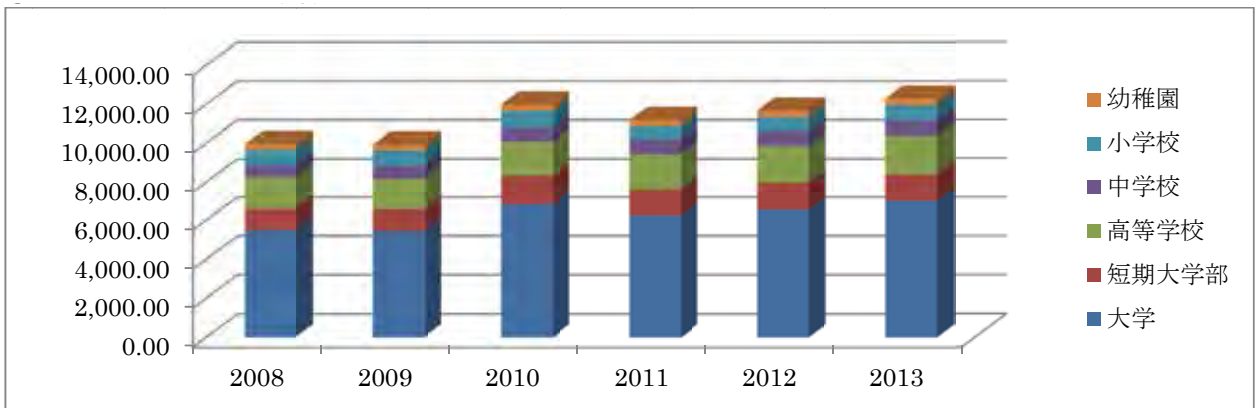
② ガス使用によるCO₂排出量



単位：kg-CO₂/年

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
大 学	273,963	271,034	340,606	311,854	326,438	349,650
短期大学部	55,697	57,303	75,034	69,601	71,636	69,824
高 等 学 校	81,725	79,898	87,174	89,493	93,344	98,141
中 学 校	31,734	33,189	36,129	37,319	38,921	40,916
小 学 校	38,392	38,810	42,484	35,233	36,703	38,588
幼 稚 園	14,948	14,827	16,366	14,517	15,080	15,824
合 計	496,459	495,060	597,794	558,017	582,123	612,943

③ ガス使用量による熱量換算

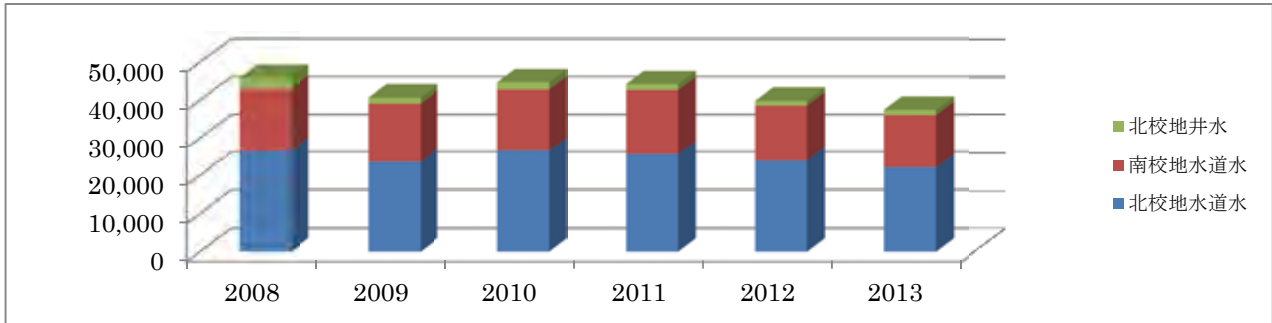


単位：MJ/年

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
大 学	5,493.914	5,435.181	6,830.342	6,253.766	6,546.221	7,011.693
短期大学部	1,116.909	1,149.120	1,504.698	1,395.744	1,436.557	1,400.224
高 等 学 校	1,638.874	1,602.227	1,748.141	1,794.643	1,871.878	1,968.064
中 学 校	636.384	665.549	724.506	748.384	780.506	820.512
小 学 校	769.888	778.266	851.962	706.541	736.019	773.830
幼 稚 園	299.757	297.338	328.205	291.110	302.400	317.318
合 計	9,955.726	9,927.681	11,987.854	11,190.188	11,673.581	12,291.642

③ 学園における水道使用量

学園の水道使用量については、2011年から2013年にかけて大きく減少傾向にあります。大きな要因として、計画的にトイレ改修等を行う際、節水式のものを採用していることや南校地においては、水道蛇口に節水金具を設置したことが考えられ、この取組が数値として結果に表れました。



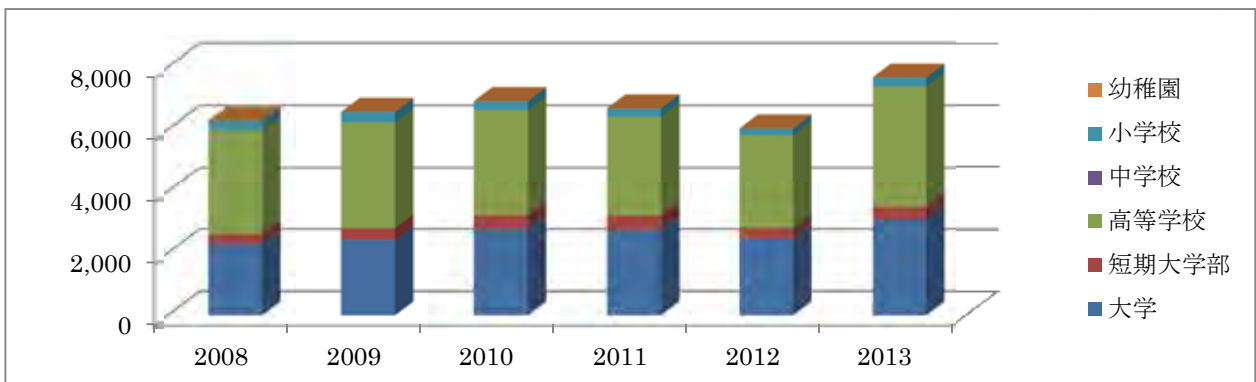
単位：m³/年

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
北校地水道水	26,452	23,507	26,524	25,539	23,894	22,081
南校地水道水	16,486	15,566	16,214	17,046	14,678	14,011
北校地井水	2,895	1,593	1,918	1,599	1,213	1,328
合計	45,833	40,666	44,656	44,184	39,785	37,420

④ 学園におけるガソリンエネルギー消費量

ガソリン使用量については、2007年以降募集活動の更なる強化を図ったことなどを背景に大学に入試関係車両を3台導入したこともあり大幅に増加しました。その後も年々増加していますが、2012年においては、アイドリングストップの励行や公用車使用の抑制等の啓発を行った結果、消費量が減少しました。しかし、2013年には特に入試関係車両の利用が大幅に増えたため、ガソリン使用料は2008年以降、最大値を記録しました。

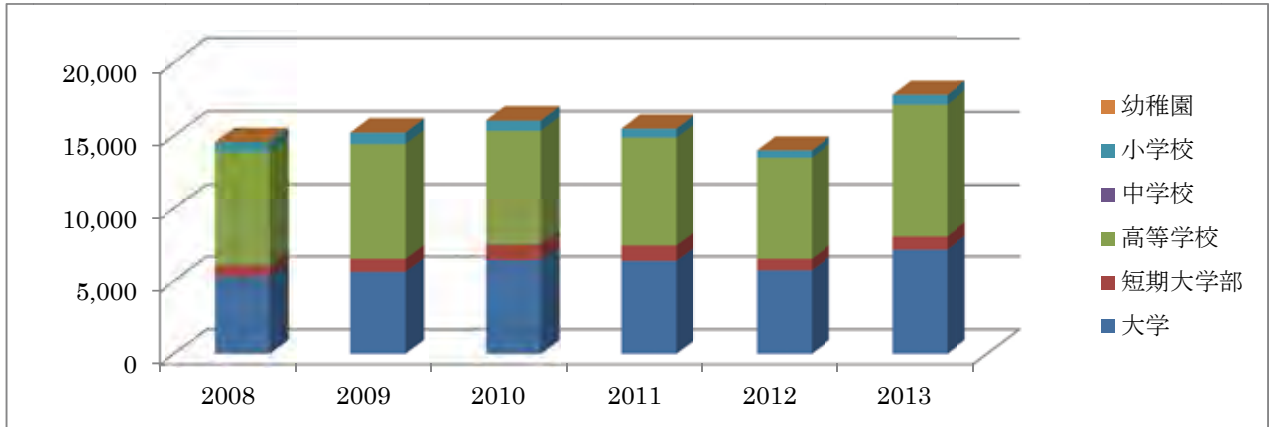
① ガソリン使用量



単位：ℓ/年

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
大学	2,272	2,421	2,760	2,747	2,467	3,086
短期大学部	346	383	471	459	338	394
高等学校	3,355	3,422	3,388	3,204	3,010	3,901
中学校	0	0	0	0	0	0
小学校	316	341	299	272	222	293
幼稚園	0	0	0	0	0	0
合計	6,289	6,567	6,918	6,682	6,037	7,675

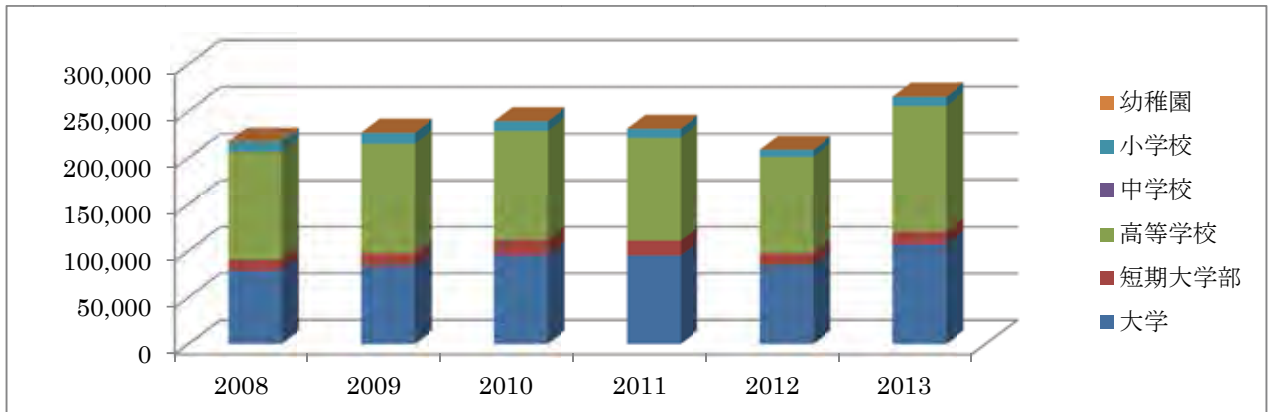
② ガソリン使用によるCO₂排出量



単位：kg-CO₂/年

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
大 学	5,275	5,621	6,408	6,378	5,728	7,165
短期大学部	803	889	1,094	1,066	785	915
高 等 学 校	7,789	7,945	7,866	7,439	6,988	9,058
中 学 校	0	0	0	0	0	0
小 学 校	734	792	694	631	515	680
幼 稚 園	0	0	0	0	0	0
合 計	14,601	15,246	16,061	15,513	14,016	17,820

③ ガソリン使用量による熱量換算



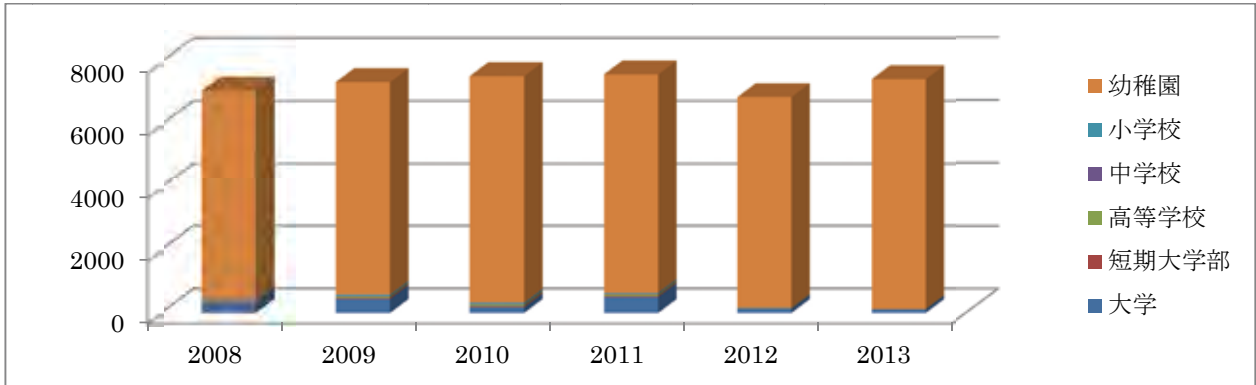
単位：MJ/年

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
大 学	78,611	83,766	95,496	95,046	85,358	106,776
短期大学部	11,971	13,251	16,296	15,881	11,694	13,632
高 等 学 校	116,083	118,401	117,224	110,858	104,146	134,975
中 学 校	0	0	0	0	0	0
小 学 校	10,933	11,798	10,345	9,411	7,681	10,138
幼 稚 園	0	0	0	0	0	0
合 計	217,599	227,218	239,362	231,197	208,880	265,555

⑤ 学園における軽油エネルギー消費量

軽油使用量については、9割以上が幼稚園の園バスで消費しています。ガソリン使用量同様にアイドリングストップの励行を行うとともに、学園で所有するマイクロバス2台の使用方法を見直す中で、使用の抑制等の啓発を行っています。このため2012年には軽油使用料が過去最小値となりましたが、2013年に幼稚園バスの送迎ルートが延長したことから、使用料としては増加しています

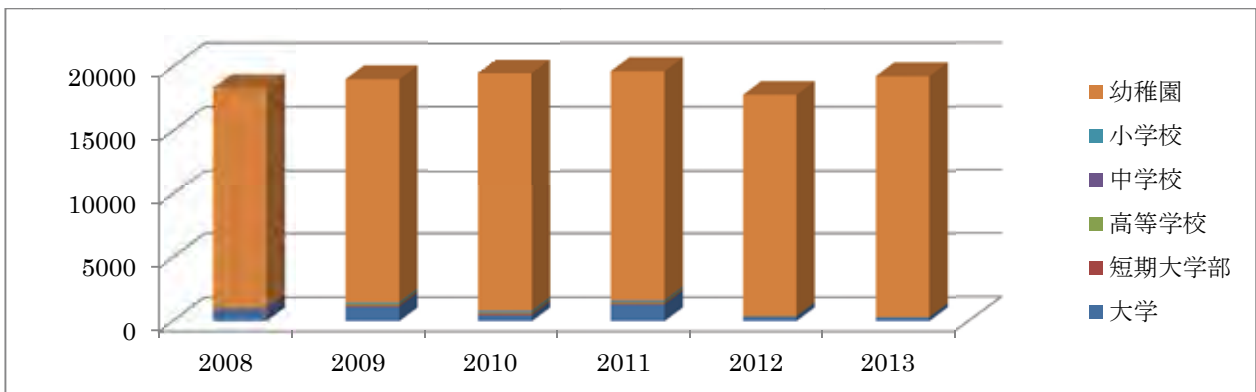
① 軽油使用量



単位: l/年

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
大 学	356	446	178	508	127	108
短期大学部	25	40	41	36	12	6
高 等 学 校	29	43	48	53	18	10
中 学 校	8	16	18	21	7	4
小 学 校	23	37	40	25	8	4
幼 稚 園	6,653	6,785	7,234	6,968	6,721	7,329
合 計	7,094	7,367	7,559	7,611	6,893	7,461

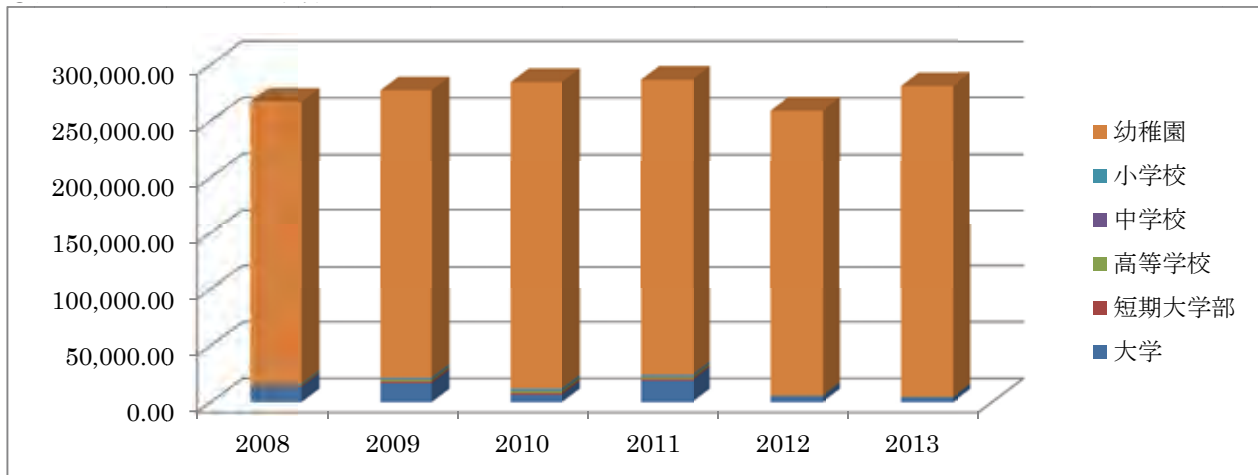
② 軽油使用によるCO₂排出量



単位: kg-CO₂/年

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
大 学	920	1,153	460	1,313	328	279
短期大学部	65	103	106	93	31	16
高 等 学 校	75	111	124	137	47	26
中 学 校	21	41	47	54	18	10
小 学 校	59	96	103	65	21	10
幼 稚 園	17,198	17,539	18,700	18,012	17,374	18,940
合 計	18,338	19,043	19,540	19,674	17,818	19,281

③ 軽油使用量による熱量換算



単位：MJ/年

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
大学	13,421.200	16,814.200	6,710.600	19,151.600	4,787.900	4,071.600
短期大学部	942.500	1,508.000	1,545.700	1,357.200	452.400	226.200
高等学校	1,093.300	1,621.100	1,809.600	1,998.100	678.600	377.000
中学校	301.600	603.200	678.600	791.700	263.900	150.800
小学校	867.100	1,394.900	1,508.000	942.500	301.600	150.800
幼稚園	250,818.100	255,794.500	272,721.800	262,693.600	253,381.700	276,303.300
合計	267,443.800	277,735.900	284,974.300	286,934.700	259,866.100	281,279.700

⑥ エコキャンパスを目指して (KOKA エコアワード)

本学園では、経営方針に掲げられたエコスクールの実現を全学的に推進するため、平成22年の学園創立70周年記念時に行われた「KOKAエコアワード」の趣旨（下記参照）に基づいて、その取り組みを継承し、さらにその活動の普及と深耕を図ることを目的に毎年実施しています。主な取組としては、各設置校園で実施されている環境教育をシンポリックに取り上げるとともに、全校園の園児から学生までを対象として、エコ活動啓発する作品（作文部門・標語部門・ポスター部門・作品部門）を募集し、優秀作品に各賞を授与し、表彰を行っています。さらに、平成26年度は上記4部門に、エコアイデア部門を加え、学生・生徒の優れたエコ活動のアイデアに助成することになりました。

【趣旨】

「エコ」という言葉は現代社会に浸透してきたものの、「エコ活動」はまだ家庭にも社会にも浸透している訳ではありません。本学園ではそれぞれの校園において、講義、授業、課外活動やボランティア活動を通し、学齢にあった環境教育に力を注いでおり、保護者の皆さまはもとより、各方面からご理解と高い評価をいただいております。

そこでこの度、院生・学生・生徒・児童・園児の皆さんにエコ意識をさらに啓発し、私たち個々が今、何をなすべきかを考え、表現するとともに、身近なところから「エコ活動」に取り組む機会として、創立70周年を迎える光華女子学園に「KOKAエコアワード」を設立いたします。

ついでには、全校園の園児から学生までを対象にエコ啓発の作品を募集し、優秀作品に各賞を授与、70周年記念式典において表彰いたします。併せて、学生生徒の皆さんの実践されているエコ活動も表彰したいと考えております。当日は会場内ロビーに作品展として掲出、さらに70周年記念棟キャンパスモールにも展示を計画いたしております。（『学園創立70周年記念「KOKAエコアワード」啓発作品募集要項」から一部抜粋）



⑦ 省エネルギーに向けた活動

本学園では、エネルギー使用量削減に向け、ソフト面では、学園挙げて夏季のクールビズ・ウォームビズ活動を実施し、空調機の温度設定（夏季28度、冬季20度設定）や照明の間引き、事務室内昼休みの消灯、職員の見回りによる空き教室の照明・空調機の消灯等を行っています。さらに、2014年度は、新たな取組として、大学学生サポートセンターにおいて、「エコポロシャツ活動」が始まりました。エコポロシャツ活動は学生サポートセンターを中心に「エコ活動への貢献」「親しみやすい雰囲気づくり」「職員同士の連帯感の醸成」を目的としています。この「エコポロシャツ」は学園のクールビズ期間中の毎週金曜日やその他オープンキャンパス、学園祭等で着用し、それらの日を「学サポエコデー」と呼び、学内での周知も行っていきます。一方、ハード面では、計画的に太陽光発電装置の導入や発電機能付き空調機を採用し、可能な限り地産地消を目指したハード面の整備を行っています。また、校舎等の改修に併せて高効率型の照明器具等を採用し、省エネルギー化を図っています。

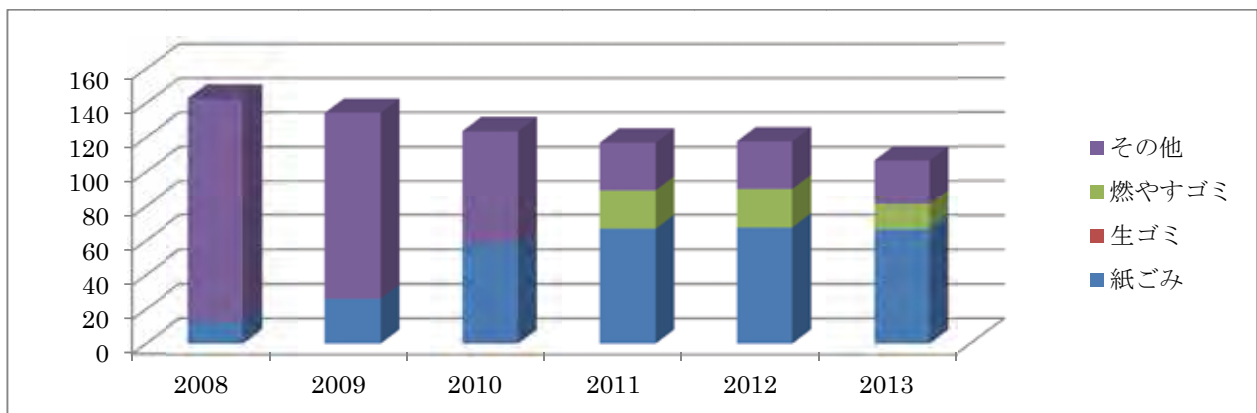


エコポロシャツで業務に取り組む学生サポートセンタースタッフ

⑧ 廃棄物削減に向けた活動

事業系廃棄物の発生量については、2008年以降減少傾向にあります。特に事業系廃棄物の再利用量が2010年以降大幅に増えています。これは、廃棄物の分別を徹底したことが大きな要因と言えます。その反面、産業廃棄物の発生量については、ゴミの分別の徹底により空き瓶やペットボトルの発生量が増加していますが、再生利用量からみて分かる通り、全てを再生利用しています。また、今年度からは大学側の各棟（廊下）に分別項目を一般ごみ、かん・びん・ペットボトル、プラスチックの3項目に加え、「古紙」の回収BOXを設置し、さらなる分別、再生利用の徹底を目指しております。

① 事業系廃棄物の発生量

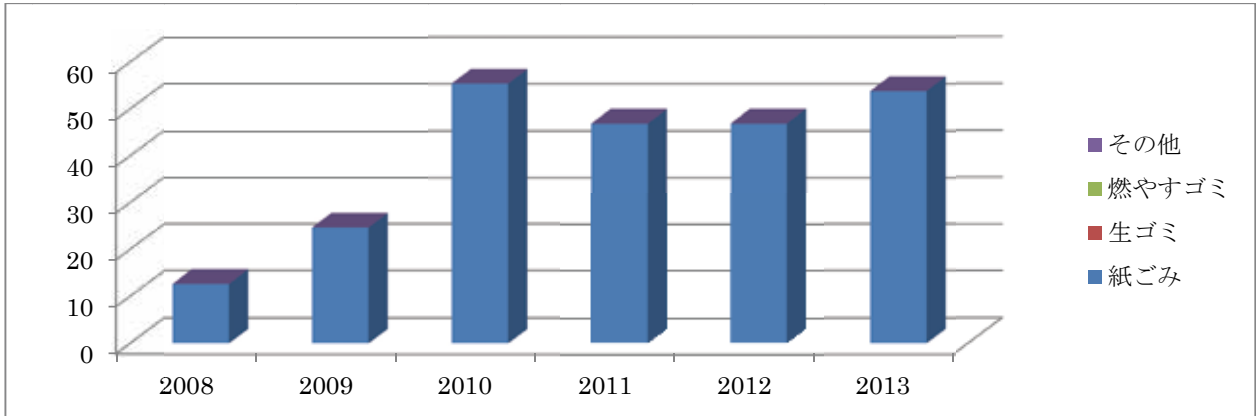


単位：トン

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
紙ごみ	12.6	26	58.1	66.4	67.2	66.3
生ゴミ	0	0	0	0	0	0
燃やすゴミ	0	0	0	22.7	22.7	14.5
その他	130	108.3	65.6	27.9	27.9	25.8
合計	142.6	134.3	123.7	117	117.8	106.6



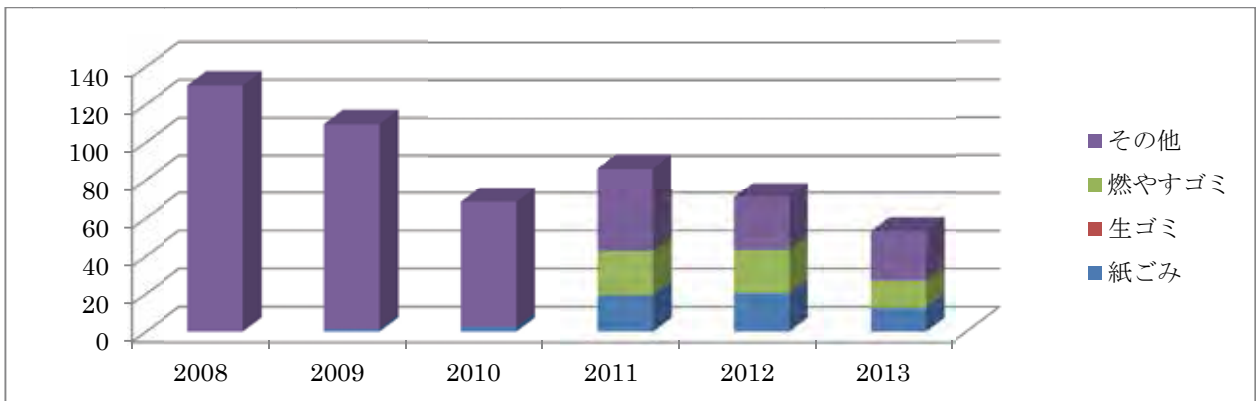
② 事業系廃棄物の再生利用量



単位: トン

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
紙ごみ	12.6	24.6	55.5	47	47	53.9
生ゴミ	0	0	0	0	0	0
燃やすゴミ	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
合計	12.6	24.6	55.5	47	47	53.9

③ 事業系廃棄物の廃棄量



単位: トン

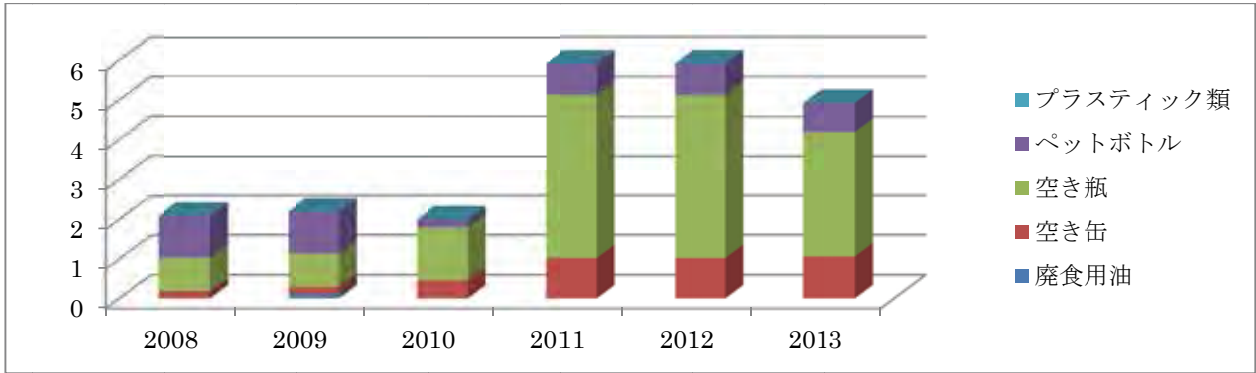
	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
紙ごみ	0	1.4	2.6	19.4	20.2	12.4
生ゴミ	0	0	0	0	0	0
燃やすゴミ	0	0	0	22.7	22.7	14.5
その他	130	108.3	65.6	44.1	27.9	25.8
合計	130	109.7	68.2	86.2	70.8	52.7



4項目に分別したリサイクルボックス



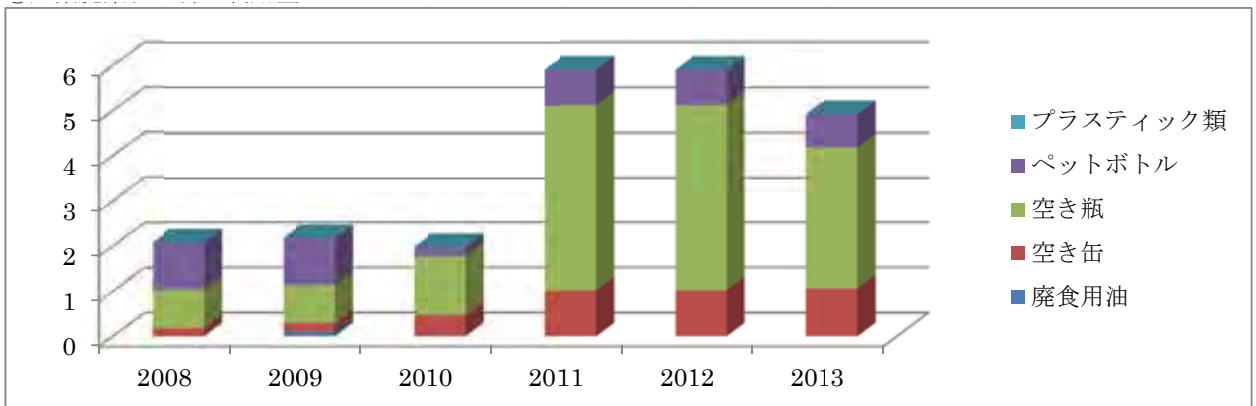
④ 産業廃棄物の発生量



単位: トン

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
廃食用油	0	0.1	0	0	0	0.6
空き缶	0.19	0.19	0.47	1.02	1.02	1.06
空き瓶	0.84	0.84	1.31	4.11	4.11	3.14
ペットボトル	1.05	1.05	0.2	0.79	0.79	0.73
プラスチック類	0	0	0	0	0	0
合計	2.08	2.18	1.98	5.92	5.92	4.93

⑤ 産業廃棄物の再生利用量



単位: トン

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
廃食用油	0	0.1	0	0	0	0
空き缶	0.19	0.19	0.47	1.02	1.02	1.06
空き瓶	0.84	0.84	1.31	4.11	4.11	3.14
ペットボトル	1.05	1.05	0.2	0.79	0.79	0.73
プラスチック類	0	0	0	0	0	0
合計	2.08	2.18	1.98	5.92	5.92	4.93

⑨ 太陽光発電

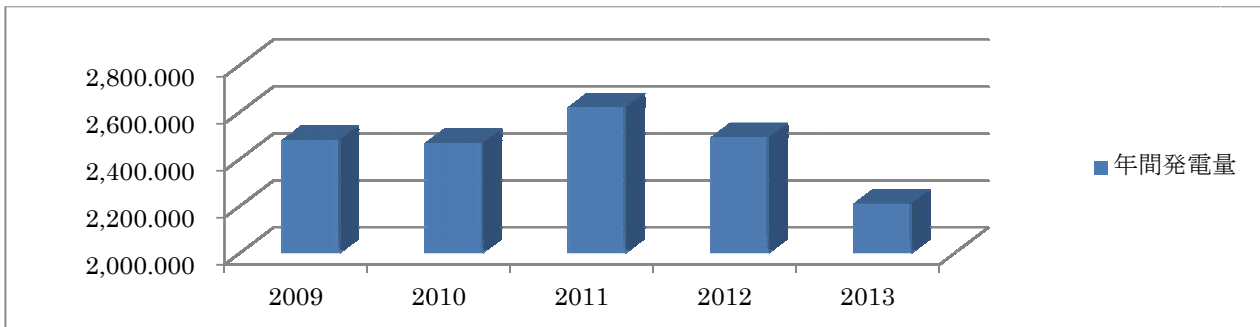
学園では、京都府の策定した「京と地球の共生計画」をもとに、地球温暖化防止を目的として、平成16年に本学北校地の5号館（実験・実習施設棟）屋上に太陽光発電装置（施設内に観測表示装置含む）3kwhを導入し、館内の電力の一部に充当することにより、エネルギーの高度な高効率活用を実施しています。また、本学は女子大学として地球温暖化保全・新エネルギーを踏まえた環境教育の拡充を目指し、近隣・地域への地球温暖化への発信を目指すことを目的のひとつとしています。併せて、屋上緑化（300㎡）や高効率安定器（昼光・人感センサー・初期照度補正等）を導入し、館内の省エネを推進しています。なお、本事業の整備にあたっては、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の補助金を活用して整備しました。さらに、平成22年に学園創立70周年を迎え、その記念として間光館（複合施設）を竣工しました。新棟建設にあたり、本学の経営方針にも掲げている「エコスクールの実現」を具現化すべく屋上階



エコキャンパスの推進

に太陽光発電装置を設置（施設内に観測表示装置含む;30kwh）し、施設内電力の一部に充当するなど環境負荷の低減や自然との共生を考慮した施設として整備しました。また、各設置校園の環境教育の実習・演習施設としても活用しています。なお、本事業の整備にあたっては、一般社団法人新エネルギー導入促進協議会の補助金を活用して整備しました。幼稚園においては、環境問題や環境教育の推進を目的として、平成24年度に園舎屋上に太陽光発電装置（施設内に観測表示装置含む）4kwhを整備し、施設内電力の一部に充当しています。また、発電モニターを設置（見える化）し、園児に対し環境教育を行っています。

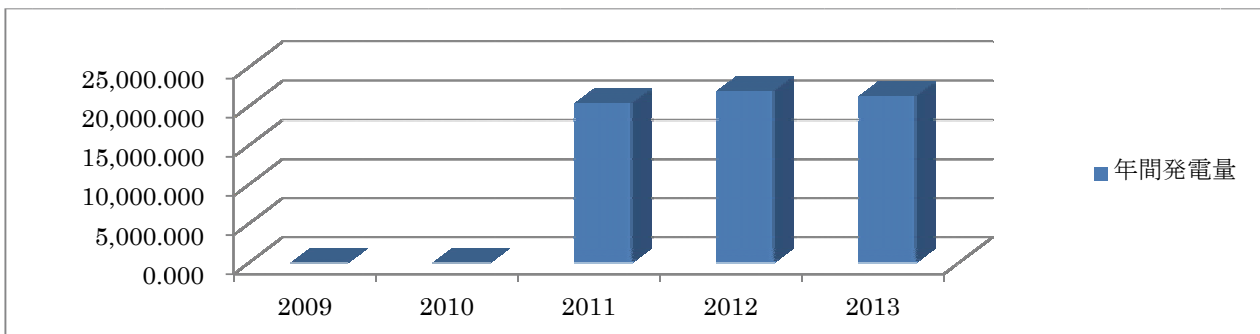
① 5号館の太陽発電



単位：kwh

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
年間発電量	2,481,000	2,467,833	2,620,358	2,492,881	2,210,951

② 間光館の太陽光発電

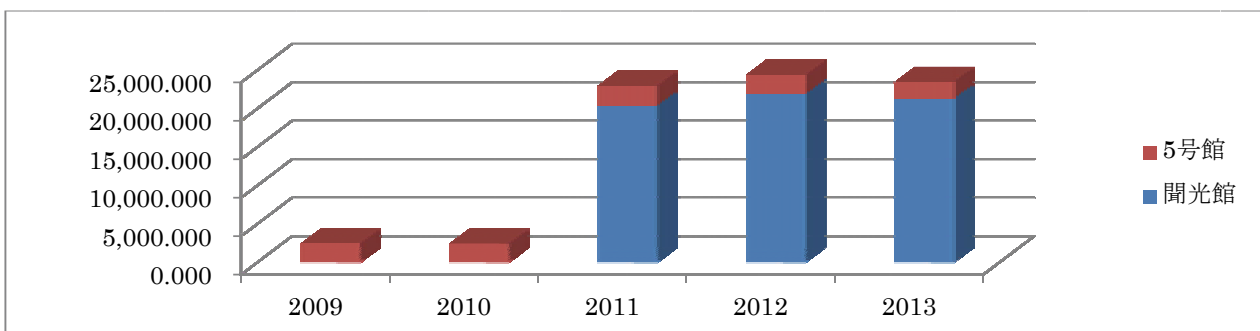


単位：kwh

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
年間発電量	0.000	0.000	20,393,611	21,947,416	21,289,953

※平成23年度より計測開始

③ 5号館+間光館の太陽光発電



(5号館+間光館)

単位：kwh

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
年間発電量	2,481,000	2,467,833	23,013,969	24,440,297	23,500,904

5.平成26年度の 環境教育 環境活動





光華幼稚園

① ごみをコンパクトに…

幼稚園では、日々の保育の中で環境の大切さについて知らせています。その中で、子どもたちが、すぐにできることとして、ゴミの量を減量化することからはじめました。遠足時のおやつのごみの持ち帰りやゴミを小さくして捨てる等、工夫をすることで、習慣づいてきました。年中児の1学期の頃には、パン給食時に牛乳パックを小さく折りたたみながら、上手に飲むようになります。「先生、エコできた!」と嬉しそうにコンパクトになった牛乳パックを見せてくれる子どもたちです。



牛乳パックを小さく…



1個ずつビニール袋にはいているパン



35人分のゴミ

② どうしてゴミを分別するの? (年中児)



燃えている所を見ている子ども



プラスチックの燃えかすを手にとって眺める様子

幼稚園では、日常の保育の中で、環境の大切さについて知らせています。その中で、今、私たちにできることとして「ゴミの分別」に取り組んでいます。全保育室にプラゴミ用ゴミ箱と一般ごみ用ゴミ箱を設置しています。年長児は分別が出来るのですが、年中児・年少児では、「プラゴミって何?」「どうして分けて入れないといけないの?」と疑問がいっぱいです。



分かり易くゴミ分別の大切さを伝えようと考え、11月7日、年中児が園庭に集まり、子どもたちの身近にある、画用紙・生鮮食品容器トレイ・ペットボトルのラベルを目の前で燃やして見せました。画用紙は綺麗に燃えていくのに対し、トレイ・ラベルの方は「黒い煙がでた!」「へんな匂いがする!」「ぐちゃぐちゃになった!」とその違いにびっくりした様子でした。「全部同じゴミ箱に入れたら、一緒に燃やすことになるの。そうしたら、大変だよ。ダメだよ。ゴミは分けて入れよう」という先生の話子ども達は真剣に聞いていました。自分の目で見たことで、ゴミの分別の大切さが理解できたようでした。今後、子どもたちが意欲的にゴミの分別をしてくれること期待しています。

③ お母さんたちによる植樹と花栽培（年中児）

9月3日（水）、保護者会クラス委員のお母さんの手で「スモークツリー・ゴールドスピリッツ」と「スモークツリー・ヤングレディー」の2本の木を植樹していただきました。保護者の方も「来年の夏、綺麗な花が咲くといいですね」「子どもたちが喜んでくれるといいですね」と、花が咲く時を今から楽しみされています。

2階の廊下では、子どもたちが牛乳パックで作った植木鉢で、マリーゴールドを育てています。無事、暑い夏を乗り越え、茎が大きくなってきました。「早く、花が咲いてほしいな」と友達と話し合いながら、毎日、水やりをしました。

10月、少量の土と牛乳パックの植木鉢でも綺麗な花が咲き、2階の廊下が明るくなり、花のいい香りがしてきました。



植樹をして下さったお母様方



ペットボトルのじょうろで水やり



綺麗な花が咲きました



④ 野菜の種・苗植え（年長児）

園内には小さな畑があり、野菜や果物を育てています。園庭で遊びながら成長の様子を見ることができます。一学期には、ナス・キュウリ・枝豆・にんじん・トマト・ラディッシュ・玉ねぎ・いちご・すいか・ピーオーネ・うめ・サクランボが収穫できました。「野菜の木に花が咲いた？なんで？」「キュウリはぐんぐん大きくなったのに、スイカはなかなか大きくなるの？」と不思議がいっぱいの子どもたち。成長していく過程を見て「花が咲いて、トマトになっていった！」「ナスの葉っぱにトゲトゲがある！」「一日で、こんなに大きくなった」と新しい発見がいっぱいありました。8月22日、夏野菜を収穫



冬野菜の種植え



夏、ピーオーネの収穫



夏、玉ねぎの収穫

した後の畑に、年長児の子どもたちが、冬野菜のブロッコリー・かぶ・ジャガイモの種・苗植えをしました。12月11日、自分たちで収穫した野菜を包丁で切って、シチューにして“シチューパーティ”をしました。「これ、僕たちで作った野菜やな」「取れたての野菜は、最高！」と美味しくいただくことができました。



収穫した野菜のシチュー



シチューパーティの様子

⑤ 廃材を使った作品製作（年長児）

毎年、牛乳パック・トイレトペーパーの芯・ペットボトルの廃材を使って、年長児の子どもたちが製作遊びをしています。今年も絵具で色付けしたり、カラフルなビーズ等で飾りつけしたりするなど、小物入れ・貯金箱・風鈴を作りました。

大人にとってはゴミでも、子どもの発想力によって、素敵な作品に生まれ変わります。幼稚園では、環境教育のひとつとして、身近な廃材を用いた作品製作に取り組んでいます。



作品の製作中



トイレトペーパーの芯で小物入れを制作



ペットボトルの風鈴





光華小学校

① ビオトープ学習

本校には、第32回卒業生が卒業記念として残してくれた学校ビオトープがあります。保護者を含め総勢100名以上が参加して作成した「手作りのビオトープ」です。設置から11年、4年生の「総合的な学習」の時間を中心に、ビオトープの生物の定期的な観察を行っています。また、ビオトープ委員会の4年生から6年生の委員が継続的な観察やメンテナンスを行っており、池の掃除なども協力して、精力的に行っています。

池の中には、メダカやヤゴ、タニシなどたくさんの生き物が生息しています。今年の夏も多くのバツタが草の間を飛び跳ね、「ビオトープ生まれ」のギンヤンマがにぎやかに池の周りを飛び回っている姿がみられました。

平成20年度には、本校の環境教育の取組みに対し、「人と自然の和、人と人との和を広げ、自然と共存する美しい地域の発展に大きく貢献した」ことが評価され、財団法人日本生態系協会より「全国学校ビオトープコンクール銀賞」を受賞しました。これからも先輩が残してくれたビオトープをしっかりと守っていききたいと思います。



小学校で大切に受け継がれているビオトープ



ビオトープを観察する小学生



毎年、初夏に咲く美しいカキツバタ



② 桂川清掃活動

光華小学校では、毎年、4年生が桂川河川敷の清掃活動を行っています。桂川は、本学園の西に流れる一級河川です。本校では、平成12年度より、地元の「葛野自治会」の方々と一緒に桂川河川敷公園を美しくする活動を継続的に行ってきました。

本年度も4年生の児童77名が、葛野自治会の皆さんと共に、ゴミを拾いました。児童が、二人一組でゴミ袋とトングを持ち、川の上流と下流に分かれて、一生懸命に清掃します。

タバコの吸い殻や、雑誌、お弁当の殻、時には、古くなった電化製品まで捨ててあります。自治会で用意して下さったゴミ袋は、あっという間に一杯になりました。

最後に「みなさん、ありがとう。これからもこの桂川の自然を守るために頑張ってくださいね。」と励ましの言葉をいただき、子ども達は、「頑張ります！」と元気よく返事をしていました。



回収された大量のごみ



毎年実施されている桂川清掃活動の様子

私たちの手で美しい桂川を！





③ フラワーポット作り・野菜作り

毎年、3年生は、「総合的な学習」の時間に、各家庭から持参したペットボトルを再利用して、フラワーポットを作っています。季節の花の苗を入れて、毎日水やりをしながら花いっぱい飾られた美しい校舎を見る子ども達の表情は、喜びに満ちています。また、園芸クラブでは、4年生以上の児童が、「万願寺とうがらし」や「なすび」「インゲン豆」「パッションフルーツ」「イチゴ」等を栽培して収穫しています。一生懸命にお世話をし、立派な野菜が採れたときは本当に嬉しく、みんなで感謝していただきます。また、うまいかなかったときは、全員で原因を考えて、次回の栽培の参考にしています。



ペットボトルを再利用したフラワーポット

おいしいイチゴが できますように！

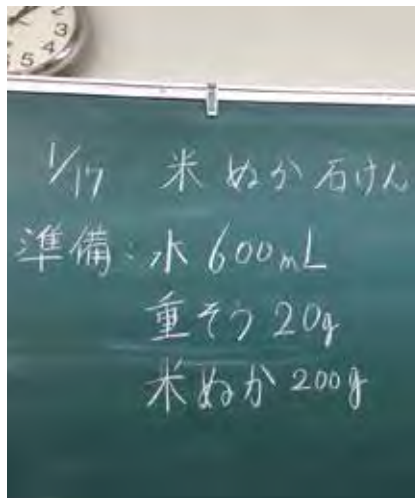


イチゴの苗を植える様子

④ 理科実験教室

光華小学校では、土曜日の放課後、3年生以上の希望者を対象に「理科実験教室」を行っています。これまで、「手回し発電機作り」、「家で出来るエコを調べよう」「米ぬかを使った環境にやさしい石鹸作り」等々…様々な理科実験を行ってきました。

米ぬかや重曹を見るのも初めての子も達ばかりでしたが、立派な「エコ石鹸」ができました。余ったぬかは、肥料とし畑に撒きました。このようにして、児童の環境への関心を深めています。



石鹸作り楽しいね



⑤ エコスクールへの取り組み

エコスクールは、1944年に北欧デンマークで誕生した学校での環境学習のためのプログラムで、FEE（国際環境教育基金、世界最大の環境NPO/NGO）のプログラムの中の一つです。世界50カ国以上で1,000万人以上の生徒により取り組まれています。児童、生徒が中心となり、エコスクールが提唱する7つのステップに沿って環境問題解決に取り組めます。特に特徴的なのが、「子どもの主体性」を重視している部分です。このような第三者認証の場合、学校では教職員が中心的な役割を果たすことが多いですが、エコスクールでは、児童一人ひとりの主体的な取組が評価されます。子どもの主体性に力点を置きながら、7つのステップに沿って学校における環境活動を推進すると、国際的な認証である「グリーンフラッグ」取得のための審査に応募することができ、取組が認められると、グリーンフラッグが授与されます。光華小学校の児童もこのグリーンフラッグを目指して一人ひとりが課題を見つけ、計画、行動し、環境問題の解決に取り組んでいます。来年度から「エコスクール委員会」を立ち上げ、本格的な活動を始めます。



ロゴ提供：FEE Japan



エコスクールの7つのステップ



エコスクール登録のために準備を進める小学生。準備段階から児童が主体的に取り組んでいる。

京都光華中学校／高等学校

平成26年度京都光華高等学校サイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP）活動紹介

サイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP）とは、生徒の科学技術、理科、数学に対する興味・関心と知的探究心等を育成するとともに、進路意識の醸成および科学技術人材の育成を目的とする事業です。独立行政法人科学技術振興機構（JST）による経費支援のもと、高等学校と大学等の研究機関が連携して、科学技術、理科、数学に関する観察、実験、実習等の体験的・問題解決的な学習活動が展開されます。

今年度、本校では、以下に挙げる2つの企画が採択されました。詳細な分野は異なるものの、我が国におけるこれからの環境とエネルギーについて考えるという点で共通性を持たせています。

① SPP活動の紹介

(1) 今を生き抜くためのサイエンス ～放射線の影響を疫学・統計学的に理解する～

<連携機関・講師>

- ・ NPO法人知的人材ネットワークあいんしゅたいん 理事長 坂東昌子先生
- ・ 京都大学環境安全保健機構放射性同位元素総合センター 助教 角山雄一先生
- ・ 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 講師 田中司朗先生

本企画は6月22日に本校プリムラコース高校2年生全員を対象として、京都大学放射性同位元素総合センター教育訓練棟にて実施されました。放射線についての基礎知識や測定器に関する講義や、霧箱の作成、自然放射線の肉眼での観察、科学者への質疑応答等、生徒の放射線に関する視野が大きく広がる内容でした。



放射線を可視化するための霧箱を作成



京都大学で放射線に関する講義を受講

また7月22日には田中司朗先生に疫学についての講義をしていただきました。放射線の人体への影響を考えるうえで疫学の概念は欠くことができません。統計学の基礎知識や実習を学び、特定保健用食品に関する論文を題材にして数値データをもとに批判する練習を行いました。計二回の講座を通して、生徒達は単に放射線について理解だけでなく、情報を正確に読み取って、客観的根拠をもって主張する力も身に付けることができるようになったと思います。



(2) 次世代エネルギー創出プログラム～廃棄物からバイオエタノールを生成する～

<連携機関・講師>

・長浜バイオ大学バイオサイエンス学部バイオサイエンス学科 教授 大島淳先生

本企画は、8月18日～22日に長浜バイオ大学京都キャンパス河原町学舎にて講座を実施し、高校2年生の希望者22人が参加しました。生徒が事前学習によって植物性の産業廃棄物を調査し、畳作成時に廃棄されるイグサを原料として調達しました。酸による加水分解、糖度測定、酵母添加、アルコール蒸留等の実験操作をこなし、バイオエタノールを生成することができました。

本企画では原料調達から実験、そして文化祭での成果発表まで生徒が主体となって取り組むことができました。



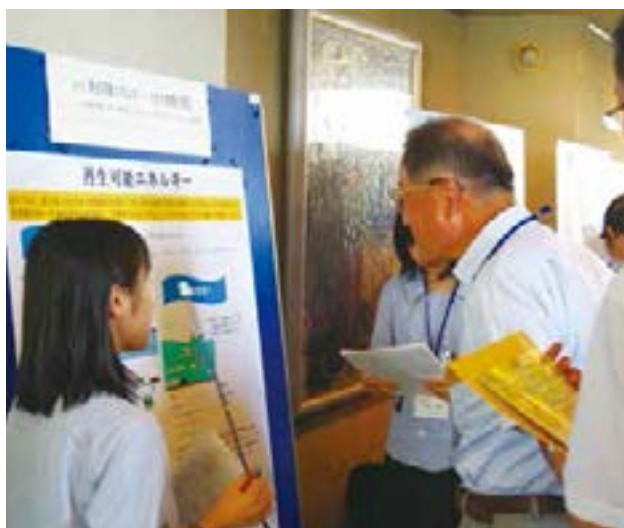
バイオエタノール実験の様子

② SPP講座の成果を発信

今回のSPP企画の成果をまとめ、外部に発表する作業にも力を入れ、生徒たちのプレゼンテーション力や発信力を伸ばすことができました。

<文化祭>

本校の文化祭ではプリムラコース全員の生徒が関わって、SPP講座で学んだことをまとめ、更に発展させてポスターセッションを行いました。



ポスターセッションのようす



パネルディスカッションのようす



<外部発表>

①第2回SSH環境・エネルギー学会in OBAMA（福井県立若狭高等学校主催）

7月26日には、本講座での学習を深め、発信力を高めるため8人の高校2年生が参加し、原発政策に関するパネルディスカッションと再生可能エネルギーや放射線についてのポスターセッションを行いました。他校との意見交換や質疑応答を通じて視野を大きく広げることができました。

②大阪府立大学等主催の第3回 ハイスクール 放射線サマークラス

本校から3名参加し、本企画で学んだ自然放射線と低線量被曝のテーマで、プレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションは大学教員によって審査され、大阪、京都、奈良、福井の高校のサイエンスコースや理科部など強豪ぞろいの中、見事、審査員特別賞を受賞することができました。副賞として放射線測定器が贈られました。審査員の大学の先生方からは「学習した内容を更に深め、非常に興味深い仮説を提示してくれました。」とお褒めの言葉をいただきました。



第3回 ハイスクール 放射線サマークラスにおける発表の様子

これらの外部への発信活動は、講座の復習や総括の意味もありますが、学習内容の深化、多くの議論を通しての対話力、そして発信力の向上等、積極的な学びの姿勢（アクティブラーニング）につながるものと考えています。何より生徒たちは発表会を経るごとに発表技術はもとより、大きな自信を得ました。これは非常に意義のあることであるとと考えています。

③ 最後に ～SELF - Activity～

これらの企画は、環境とエネルギーという現代社会において非常に重要な課題を扱っています。そしてそれらの課題を、生徒が主体的に探究し、科学的な根拠に基づいて考え、意見を主張することができるようになることを目的としています。

また、2つの企画をScience【科学的に考える】、Environment【環境に目を向ける】、Logos【言葉で表現する】、Frontier【最前線の研究に触れる】という本校のSELF - Activity（世界を知るKOKAの主体的な学び）の観点で捉え、新しい時代を生きる生徒の科学的リテラシーの涵養をねらっています。

最後に、第20回環境保全高校生論文コンクール（京都ときわライオンズクラブ主催）の結果を報告いたします。次の通り本校3名が受賞し、SPPの取り組みを確実に受け継いでくれていることが伺えます。

- 京 都 府 知 事 賞 角 野 那 起（高校1年）
- 京 都 府 教 育 長 賞 鈴 木 采（高校3年）
- 京都ときわライオンズクラブ会長賞 村 井 日向子（高校1年）





京都光華女子大学 京都光華女子大学短期大学部

① キャンパスの緑化活動

環境ボランティアサークル「グリーンキーパー」を中心に本学屋上庭園のメンテナンスやキャンパス内花壇の植え替えを定期的に行っています。特に、本学メインストリートにある花壇には、毎年夏と秋に季節の花を植えることで、年間を通じて季節の花を楽しむことができます。



屋上庭園（HIKARU-COURT）やキャンパス内花壇のメンテナンスの様子

② 伐採したケヤキの有効利用（チーム西京極）

阪急西京極駅（本学園最寄駅）の前には大きなケヤキが何本も生息する緑地帯がありました。落ち葉や鳥糞被害のため、このケヤキを伐採し新しい広場をつくることになりました。近隣住民や右京区、グリーンキーパーなどからなる「チーム西京極」では、何度も話し合いを行い、広場のデザインを完成させました。そして、グリーンキーパーは、エコに関するメッセージ性を高めるために、伐採したケヤキからベンチや看板を作成しました。



ケヤキ伐採前の西京極駅前緑地帯



ケヤキ伐採後。ここに新たに広場を作る。



伐採されたケヤキ



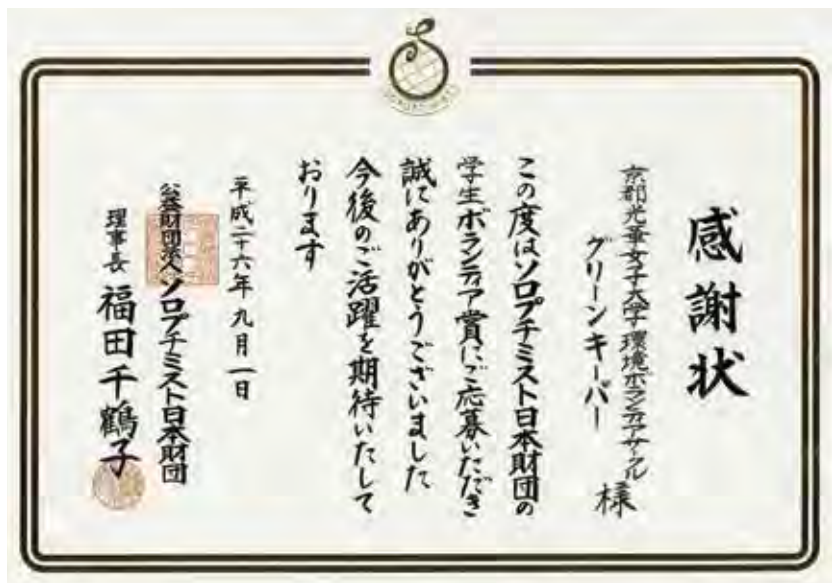
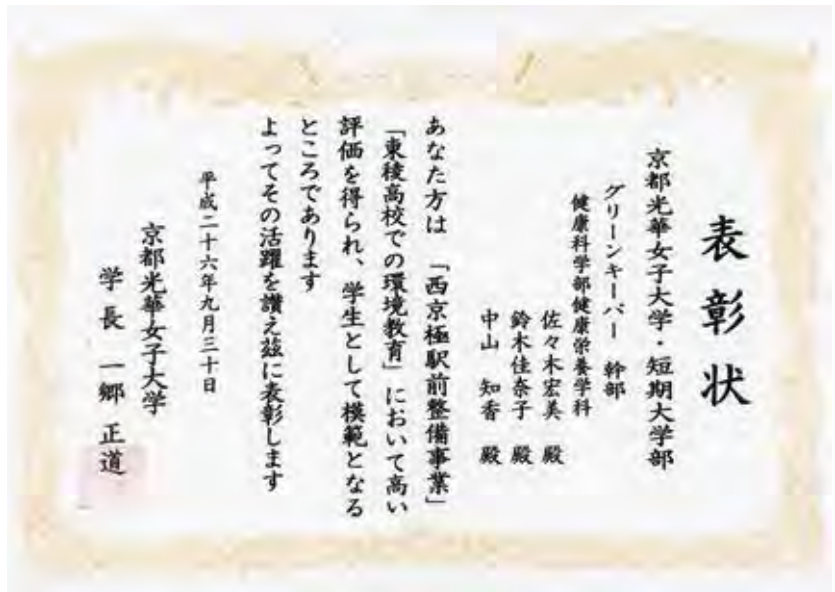
伐採したケヤキからベンチや看板を作る様子



③ 学長表彰・国際ソロプチミスト日本財団からの感謝状

京都光華女子大学では、毎年、他の学生の模範とすることができると認められ、学内外の活動で表彰に値すると認められた学生に、学長から表彰される制度があります。平成26年度の学長表彰の対象としてグリーンキーパー部長他2名、合計3名のメンバーが表彰されました。グリーンキーパーはこれまで、平成25年度学まちコラボ事業「西京極駅前整備事業」や京都府立東稜高等学校との環境教育に関する協定締結など、地域と連携した環境活動・環境教育を実践してきました。また、右京区役所主催の右京区ふれあいフェスティバルや京都西ロータリークラブ主催の学生環境サミットでは、これまでの活動を広く広報発表してきました。これらの成果が認められ、平成26年度の学長表彰に選ばれました。

また、公益財団法人ソロプチミスト日本財団からも感謝状が贈られました。国際ソロプチミストは、管理職・専門職に就いている女性の世界的奉仕団体で、混迷を深める世界情勢にあって、人権と女性の地位を向上する目的とする世界最大の奉仕団体のひとつです。今回は同団体が主催する学生ボランティア賞に応募し、残念ながら同賞を受賞するには至りませんでした。このような女性奉仕団体から女子大学の学生が表彰されることは大変ありがたいことです。



学長から表彰を受けるグリーンキーパー学生



国際ソロプチミスト日本財団から感謝状授与



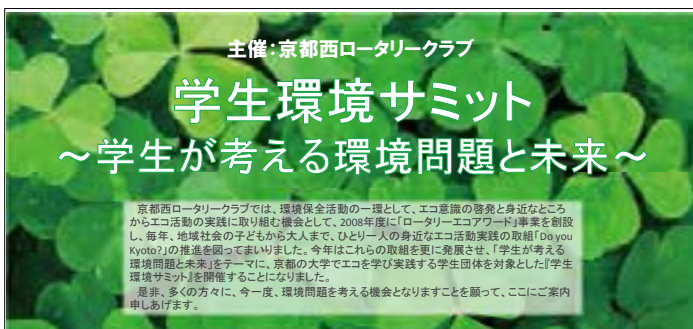
④ 京都西ロータリークラブ主催「学生環境サミット」への参加

平成26年11月29日、京都西ロータリークラブ主催の「学生環境サミット～学生が考える環境問題と未来～」が開催され、京都光華女子大学からはグリーンキーパーが出場しました。

京都西ロータリークラブでは、環境保全活動の一環として、エコ意識の啓発と身近なところからエコ活動の実践に取り組む機会として、2008年度に「ロータリーエコアワード」事業が創設されました。毎年、小学生を対象にエコに関する作品の表彰等を行い、地域社会の子どもから大人まで、ひとり一人の身近なエコ活動実践の取組「Do you Kyoto?」の推進を図ってきました。一昨年は当該クラブ創立55周年記念事業の一環と致して、「私たちの地球といのち」をテーマに、中学生による『こども環境サミット』を開催し、環境問題の取組についての発表ならびに討論が行われました。引き続き昨年は、「高校生が考える環境問題～現代社会へのメッセージ～」をテーマに、高校生を対象とした『高校生環境サミット』を開催されました。今年度はこれらの取組を更に発展させ、「学生が考える環境問題と未来」をテーマに、京都の大学でエコを学び実践する学生団体および行政など9団体を対象とした『学生環境サミット』が開催されました。

本サミットは、基調講演と学生からの取組紹介（口頭発表・ポスター発表）の2部構成で、最初に基調講演として、関西学院大学教授の野波寛先生から「みんなの資源を守るために一沖縄の海からモラルと権利を考える」と題してお話いただきました。ここでは、環境学と心理学が融合した環境心理学という新しい学問が紹介され、人間が環境問題解決に取り組む際の心理について、学術的な観点から詳細に説明されました。

続いて、第2部の学生からの取組紹介では、口頭発表として以下の5団体（①京都外国語大学 国際協力団体BWP「発展途上国を脅かす環境問題」、②京都学園大学 かめおか里道里山探検倶楽部「かめおか里道里山トレイルの実践」、③京都光華女子大学 環境ボランティアサークル「グリーンキーパー」 「地域の児童・高校生への環境教育の実践」、④京都嵯峨芸術大学 デザイン学科観光デザインゼミ「京都嵯峨野のフェノロジーカレンダー制作による資源の持続的な保全と活用 -そこから見えてくる嵯峨野の自然と歴史文化の価値-」、⑤



主催：京都西ロータリークラブ
学生環境サミット
～学生が考える環境問題と未来～
『学生環境サミット』
日時：平成26年11月29日（土）13:00-17:00
場所：サンサ右京（右京区役所）5F大会議室
内容：第1部 基調講演（関西学院大学教授 野波寛氏）
第2部 口頭発表およびポスターセッション

基調講演「みんなの資源を守るために一沖縄の海からモラルと権利を考える」

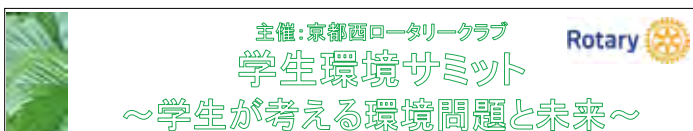
関西学院大学 社会学部 教授
野波 寛氏 Dr. Hiroshi NONAMI
名古屋大学大学院文学研究科を修了後、同大学で助手として2年、その後現在に至る。博士（心理学）
（主な活動分野）：沖縄県と内モンゴル自治区が主な研究フィールド。沖縄県の赤土流出対策や在日米軍基地
敷設、内モンゴル自治区の草原管理政策などを焦点に、いろいろな人の利害を動かす社会的決定にかかわ
る「どうがそれを決めるべきか？決める権限を持つべきは誰か？」という権利の正当性について、社会心理
学のフレームから探っている。ゲーミングや実験的手法を使って、このテーマの検証を進める真摯中。
（主な著書）：「環境問題における少数者の影響過程：シミュレーション・ゲーミングによる実験的検証」（共著、
2001年、晃洋書房）他多数。

サミット座長

京都市役所（主に都市計画部門）で15年間の勤務後、阪急電鉄株
式会社（主に文化・技術研究所）で13年間の勤務を経て、神戸国際大学経済学部で6年間、そして現在の仕事
に従事。博士（工学）、技術士（都市及び地方計画）、土木学会特別上級技術者（企画調査）
（主な活動分野）：まちづくりと交通政策の研究、人材育成、そして実践をフィールドとしている。
（主な著書）：「まちづくりDOV」（共著、2014年、学芸出版社）他多数。

サミットコーディネーター

京都光華女子大学 キャリア形成学部 准教授 同大学地域連携推進センター長 環境教育推進室長
高野 拓樹氏 Dr. Hiroki TAKANO
京都大学大学院理学研究科を修了後、本田技研工業株式会社に入社。二酸化炭素排出削減の観点から、自
動車軽量材料に関する基礎研究に従事。現在、京都光華女子大学において、地域と連携した実践的環境教育
を展開し、環境ボランティアサークル「グリーンキーパー」を指導、さらに、次世代型太陽電池に関する研究を推
進中。博士（工学）
（主な著書）：「環境配慮素材と自然エネルギー」（共著、2009年、中央経済社）他多数。 Rotary



発表団体

No.	発表団体	発表タイトル
1	京都外国語大学 国際協力団体BWP	発展途上国を脅かす環境問題 （口頭発表・ポスター発表）
2	京都学園大学 かめおか里道里山探検倶楽部	かめおか里道里山トレイルの実践 （口頭発表・ポスター発表）
3	京都光華女子大学 環境ボランティアサークル「グリーンキーパー」	地域の児童・高校生への環境教育の実践 （口頭発表・ポスター発表）
4	京都嵯峨芸術大学 デザイン学科観光デザインゼミ	京都嵯峨野の「フェノロジーカレンダー制作による資源の 持続的な保全と活用」-そこから見えてくる嵯峨野の自 然と歴史文化の価値-（口頭発表）
5	京都精華大学 「釣り同好会」	琵琶湖における外来魚の新しい活用 -ブラックバス等を美味しく食べる-（口頭発表）
6	京都光華女子大学短期大学部 ライフデザイン特論パーティー	地域の児童・高校生への小鳥の巣箱づくり推進運動 （ポスター発表）
7	京都光華女子大学 京☆しかみーツ	女子大生の考える鹿肉普及活動 （ポスター発表）
8	京都市環境政策局 地球温暖化対策室	DO YOU KYOTO? 環境にいいことしてますか?の啓発 （ポスター発表）
9	京都市ごみ減量推進会議	手をとりあってごみを減らそう （ポスター発表）

アクセスマップ



お問い合わせ
京都光華女子大学 地域連携推進センター
TEL:075-3255259



平成26年度の環境教育、環境活動

京都精華大学 釣り同好会「琵琶湖における外来魚の新しい活用ーブラックバス等を美味しく食べるー」から発表がありました。さらに、ポスター発表として、上記の団体に加え、⑥京都光華女子大学短期大学部 ライフデザイン特論バーディー「地域の児童・高校生への小鳥の巣箱づくり推進運動」、⑦京都光華女子大学 京☆しかミーツ「女子大生の考える鹿肉普及活動」、⑧京都市環境政策局 地球温暖化対策室「DO YOU KYOTO? 環境にいいことしてますか?の啓発」、⑨京都市ごみ減量推進会議「手を取りあってごみを減らそう」、というテーマで発表されました。

本学からは3団体が出場し、「京☆しかミーツ」はベストポスター賞に選ばれました。



6. 地域と連携した環境活動





① 竹の経・かぐやの夕べへの参画

竹は昔から、入れ物や傘の骨、農業備品など生活になく
てはならないものでした。しかし、近年、プラスチック製
品の登場により、その使用頻度は低下しつつあります。ま
た、竹は2~3ヶ月で20メートル以上も成長することから、
人の手で伐採していかないと、竹林は荒廃してしまいます。
向日市観光協会主催の「竹の経・かぐやの夕べ」は、竹を
有効利用することを目的として毎年行われているイベント
です。環境ボランティアサークル「グリーンキーパー」(大
学・短大)は3年前から、このイベントにボランティアと
して参画しています。

NPO法人「フロンティア協会」の方の指導のもと、伐
採した竹を沿道に並べ、水とローソクを入れていきます。
そして、夕方になるとそのローソクに火を灯していきます。
秋の寒い夜ですが、竹灯籠の幻想的な光景をみると、心温
まる気持ちになります。



竹林は人の手によって伐採しないと荒廃する



伐採した竹に水とローソクを入れる様子



かぐや姫も登場!



秋の夕闇に浮かぶ竹灯籠



一緒に参加した地域の方と記念撮影

このようなイベントを活性化させ、竹の利用価値を向上
することができれば、今の竹林荒廃の問題は解決できるで
しょう。昔から使われてきた竹。なんとか未来へとこの文
化を継承していきたいと思います。



② 右京区民ふれあいフェスティバル 2014 への出展



京都市町の挨拶で開幕

右京区民ふれあいフェスティバルは右京区民の絆を深めるために実施されている、毎年15,000人程度が参加する右京区の一大会のひとつです。環境ボランティアサークル「グリーンキーパー」は、毎年このイベントに出展しています。私たちは本学のこども保育学科ブースと並



景品のバルーンアートづくり

べて出展し、グリーンキーパーブースでは、これまでの環境活動をまとめたパネル展示や、子ども向けのボール投げゲーム、ボンボンの手作り体験を行いました。

開会式の後、すぐにはたくさんのお子もたちが遊びに来てくれました。ボール投げゲームはとても人気があり、中にはボールが全部入れられた子どもや、もう一回挑戦しにきてくれた子どももいました。ボールをみごとかごに入れてくれた子どもには、私たちが作ったバルーンアートをプレゼントしました。一度にはたくさんのお子もたちが遊びに来てくれたので、バルーンアートを作ることに大忙しでしたが、たくさんの方が遊びに来てくださったことが何よりうれしかったです。

お隣のこども保育学科のブースもとても人気がありました。私たちグリーンキーパーとこども保育学科のブースはイベント終了までたくさんのお子もたちでにぎわっていました。このようなイベントを通じて少しでも環境問題に関心を持っていただくと幸いです。



バルーンアートを選ぶ子ども





③ 地域と連携した大学環境教育の取組

京都光華女子大学の基礎・教養科目「シチズンシップ」「環境学」「地域環境学」では、積極的に地域連携を取り入れた授業を展開しています。

①シチズンシップ

全学対象の必修科目でもある「シチズンシップ」では、右京区のリアルの課題について学び、その解決策を探るプロセスの中で、環境市民としての意識の向上を目的のひとつとしています。この授業では、右京区の課題の中でも特に重要となる「高齢者問題」「子育て支援」「防災・災害時対応」「健康増進」の4つのテーマについて、実際に右京区職員の方から紹介していただくことから始まります。そして、何度もグループワークを重ねて、最後にポスター発表が行われました。優秀なポスター発表をしたグループには右京区長から右京区長賞が授与されました。



ポスターで地域の課題解決案を発表する様子

②環境学

全学対象の選択科目「環境学」では、京都市副市長から「安全な環境と私たちの暮らし」と題して、京都市における災害時対策の他、震災や水害などで自らが危険に晒されたときの対処法や、その際に行政が助けに来るまでの時間などについてお話いただきました。京都市の防災担当でもある副市長からのお話はリアリティに溢れていました。



京都市副市長による災害対策に関する講義

③地域環境学

一方、全学対象の選択科目「地域環境学」は、フィールドワークを学びの基軸とする活動的な科目。地域の方の案内のもと、右京区京北エリアの林業と農業における問題について学びました。過疎化が進み、深刻な鳥獣被害に悩まされている方からのメッセージには、新たな学びがたくさんありました。

京都光華女子大学では、このような地域のリアルな課題を学びのテキストとする地域連携型環境教育が積極的に展開されています。



農作物に触れて農業の鳥獣被害を学ぶ学生



④ 夏期公開講座「地域の環境問題」を開催

7月5日、本学にて公開講座「地域の環境問題」を開催いたしました。今回は京都光華女子大学キャリア形成学科担当の公開講座として、「地域の環境問題」をテーマに、Ⅰ部では本学准教授で地域連携推進センター長の高野拓樹先生より、「地球温暖化が引き起こす地域の環境問題」と題し、地球温暖化が原因で起こっている大規模な干ばつや海面上昇など、世界各地起きている様々な環境問題を紹介し、今後、私たちの生活環境がどうなっていくのか、をテーマに講演いたしました。

Ⅱ部では京都市環境政策局 西部まち美化事務所 所長の田中清秀氏を講師にお迎えし、「災害により発生した大量のごみのゆくえ」と題し、平成23年に発生した東日本大震災や、昨年右京区にも大きな被害をもたらした台風18号など、災害時におけるごみの処分方法についてご講演いただきました。



西部まち美化事務所所長による講演



災害時のごみ処理で活躍するプレスパッカー車

⑤ 平成26年度右京区まちづくり支援制度に採択

6月20日、平成26年度右京区まちづくり支援制度に環境ボランティアサークル「グリーンキーパー」が応募し、提案事業である「お花でいっぱい西京極駅前ひろば」が採択されました。右京区まちづくり支援制度は、地域の資源や価値を再認識し、まちの将来像を描き、まちづくり活動を展開していくことを目的として、右京区役所主催の助成制度です。

今回、グリーンキーパーが提案した事業は、現在、同サークルが推進している西京極駅前広場の開発に伴い、この広場に地域の方と一緒に管理運営する花壇を設置するというものです。植栽を通じた地域とのコミュニティづくりを目指しています。

なお、京都光華女子大学からはグリーンキーパーを含む合計5団体が今回の支援制度に応募し、すべての団体が採択されています。以下、採択テーマ名「光華子育て支援かがやき隊」「感じて！遊んで！魅力まちびと！（U-girl）」「右京ツウ」「女子大生と踊ってくれない？華羅紅」。



グリーンキーパーによる発表



U-girlによる発表



⑥ 京都府立東陵高等学校との連携

京都府立東陵高等学校と京都光華女子大学は平成23年度からスタートした大学コンソーシアム京都主催「高大連携 実践研究共同教育プログラム（東陵高等学校プログラム）」において3年間、本学の屋上庭園を使った環境教育やグリーンキーパーによる高校生向け授業などを実施してきました。そして、プログラム終了した今年5月、東陵高校と本学は、双方の教育に係る交流を通じて、連携と協力を充実、強化することにより、一層魅力ある高等学校教育及び大学教育を実現していくことを目的とし、教育交流・連携と協力に関する連携協定を締結しました。同高等学校は、平成26年度よりアカデミーコース、キャリアコース、総合コースを設置しており、その中でも国公立大学・難関私立大学への進学を目指す、アカデミーコースでは、高大連携による学びの特別プログラムとして「ヒューマン・リサーチシリーズ」「サイエンス・リサーチシリーズ」を展開しています。この特別プログラム「ヒューマン・リサーチシリーズ」の中で、本学（主にグリーンキーパーサークル）と連携・協力しながら環境教育について講義・実習を計画し実践していきます。



東陵高校と本学との調印式



本学教員による東陵高校での環境授業



東陵高校生と本学学生の花植え協同作業



本学屋上庭園での環境授業



東陵高校で花の植え方をレクチャーする学生



⑦ 災害ボランティア活動

地球の平均気温上昇に伴う大型低気圧の発生により、世界のいたるところで台風やハリケーンによる被害が発生しています。近年、日本においては、大雨を伴う大型台風が山間部を襲い、降水量は記録史上最高を更新し続けています。8月16日に京都府を襲った大雨によって大きな被害を受けた右京区京北町や福知山市において、20日・21日・27日の3日間、本学の教職員が災害ボランティアとして活動しました。今回の記録的な大雨により土砂災害や浸水被害を受けた民家や地区の集会所にて、スコップや放水ホース、デッキブラシなどで、屋内に流れ込んだ泥の掻き出しや清掃などの復旧活動を行いました。特に、本学のある右京区では、毎年、記録的な大雨が地域を襲い、大きな被害をもたらしています。このため、地域と大学が連携した災害ボランティア体制の構築が急務となっています。本学では引き続き、地域連携推進センターが中心となって、地域に貢献できる活動を続けてまいります。



民家を襲った土砂崩れ。懸命に土砂の撤去作業に取り組む様子



災害により大量に発生したごみの山。水没した家具や家電製品は二度と使えない



⑧ 桂川河川敷公園の清掃活動

平成12年度より、光華小学校の4年生は地元「葛野自治会」の方々と共に桂川河川敷の清掃活動を行っています。平成24年には、京都市より「第9回京都環境賞」を頂きました。「校区設定のない私立小学校でありながら、地域とつながりを築き、12年にわたり地元自治会と共に河川敷の清掃活動を実施するなど、児童がごみの現状等を学ぶ機会をつくってきたこと」が評価されたものです。これからも尚一層、清掃活動に力を入れていきます！



10年以上続けてきた桂川河川敷清掃活動、第9回京都環境賞受賞（右下）

平成26年度も4年生全員で清掃活動を行いました。6月の清掃活動の際には、タバコの吸い殻や、ペットボトル等の他、鳥かごまで落ちていて、子ども達もびっくり！！

自治会の方が用意して下さったごみ袋は、様々なごみでみるみる一杯になりました。

これからも力を合わせて桂川を美しくしていきます。





⑨ 女子大生による鹿肉普及活動の試み 京♣しかミーツ

京♣しかミーツは、京都市右京区の野生鳥獣による被害対策「もみじプロジェクト」に賛同して、鹿肉の普及を目的に活動して2年目です。学生たちは鹿肉を食べた経験がないので、月に一度、鹿に関する勉強会や鹿肉メニュー試作会を行いながら、地域と連携した活動を行いました。この活動は26年度京都市学まちコラボ事業に採択されました。

① 鹿に関する勉強会

鹿による環境被害の現状や鹿の生態、鹿の捕獲、肉の特徴などを多角的に勉強する会議を開催し、2年生が昨年度作成した資料をもとに1年生に講義を行いました。さらに秋のフィールドワークに備えて女猟師の仕事や鹿の捕獲についても学びました。

② 鹿肉メニュー試作会

基本的には家庭料理の開発を目指していますが、イベントで販売可能なメニューを中心に試作を繰り返し、多くのおいしいメニューの中からスコッチエッグのミンチ肉に鹿肉を使用した「しかッチエッグ」を考案しました。学生が主体的に買い出しから下処理、調理、仕上げまでの作業工程を経て一つの料理を組み立てることで、作ることの楽しさや、料理が出来上がった達成感が得られました。

③ 右京区のイベントに出店し、しかッチエッグを完売

梅津地区の敬老福祉祭り、あかね祭りに出店し、しかッチエッグを販売しました。鹿肉をはじめて食べた方からも「思っていたより食べやすい」「おいしい」という声をいただきました。右京区ふれあい祭りでは鹿の角を利用した輪投げゲームを行い小さい子どもたちに人気でした。同時にパネルを展示して活動の目的を説明し、区民の方にアピールしました。



鹿肉料理の試作風景



時計回りに鹿コロッケ、しぐれ煮入りおむすび、鹿揚げピザ、鹿のスコッチエッグ、鹿バーグなどの試作の数々



大学内でも活動をアピールするために鹿ピザの頒布を実施



地域のお祭りに出展



地域と連携した環境活動

④フィールドワーク

美山町江和ランドを訪問し、女猟師の方から鹿被害や狩についてのお話を伺った後、芹生の森を歩き、鹿による被害を実感しました。



フィールドワークで森林の鹿被害状況を通じて学ぶ。

⑤鹿料理の試食会

丹波鹿専門の料理屋で山椒焼きやステーキなどをいただき、ご主人から鹿肉を美味しく料理するためのプロの技を聞き、さすがだと感じました。

⑥エコしかクッキング 第2弾

昨年に引き続き鹿肉料理教室「エコしかクッキング」を開催しました。女猟師鹿取悦子氏による「美山町での鹿害とそれへの取り組み」のミニセミナーの後、鹿肉料理教室主宰の林先生による「ヘルシーな鹿ベジ・ランチをございっしょに」と題し、もも肉の照り焼きバーガーと鹿つみれスープを実習しました。ミニセミナーでは鹿被害の写真を見て深刻さに驚きました。実習では、先生から鹿肉の扱いについてとても丁寧な説明があり、鹿肉が初めての参加者もとても興味深く実習をすすめることができました。会の運営、司会、料理補助などすべて学生が遂行し、一般の方々に活動を広くアピールできる催しとなった。また参加者からは学生の積極的な行動についてお褒めの言葉をいただき、講習会を充実したものにすることができました。



もも肉の照り焼きバーガー（上）と鹿つみれスープ（下）

京都光華女子大学 京○しかミーツ 平成26年度 京都市学まちコラボ認定事業

エコしかクッキング

右京区京北地域の森林保護と鹿作物被害の減少を目的として、京都光華女子大学短期大学部ライフデザイン学科の京○しかミーツが環境セミナーと料理教室を開催します！

ミニセミナー
「美山町での鹿害とそれへの取り組み」
観光農園江和ランド 女猟師 鹿取 悦子氏

料理講習会
「ヘルシーな鹿ベジ・ランチをございっしょに！」
「愛deer料理教室」代表 鹿肉料理研究家 林 真理氏

～MENU～
もも肉の照り焼きバーガー
鹿つみれスープ

日時 2015年1月18日(日)
14:00～16:00

場所 京都光華女子大学
6号館1F 第2食物実習室

参加費 ¥2000 (事前振込) 申込期間 2014年12月8日(月)～2015年1月9日(金) 〆切

持物物 エプロン・三角巾・手ふきタオル・筆記具

お申し込み方法は裏面へ

主催：京○しかミーツ（京都光華女子大学）
京○しかミーツの活動Blogも要CHECK! <http://www.koka.ac.jp/manaboo/category/year2014/shika2014>



メンバー作成のエコしかクッキングの紹介チラシ

メンバー作成のエコしかクッキングの様子

7. 海外レポート



① 沈みゆく島国 キリバス共和国

2012年8月、キリバス共和国を訪れました。太平洋赤道上に浮かぶこの国は、33のサンゴでできた島からなる人口約9万人の小さな島国です。この国は今、多くの文化や歴史を抱えたまま、海の中に沈もうとしています。

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第5次評価報告書によると、海面水位の上昇は最大82cmに及ぶと予測しています。海拔2mにも満たない太平洋島嶼国にとっては危機的な問題です。その中でもキリバスは、世界で最も早く重大な被害に陥る可能性があります。温室効果ガスの排出量が世界で最も低いレベルであるにも関わらず、この小さな島国は真っ先に沈もうとしています。

空港に降り立って最初に出迎えてくれたのはこの国の子どもたちでした。めったに來ない国際線の飛行機がめずらしいようです。到着ロビーもまるで市場のようで、現地の人に聞くと、特に用事があるわけではなく、外国のお客さんを見に来ているとのことでした。

ここでの生活は、本当に自然に近いものがありました。茅葺き屋根の小さな家に住み、作物を育てたり、家畜を飼ったりしながら生活しています。また、最も驚いたことが、現地の方の人柄でした。通常、開発途上国に旅行すると、多くの物売りをはじめとする商売上手な方と遭遇するイメージがあります。しかし、この国に滞在している間は、全くそのようなことはなく、むしろ、歩いているとヤシの実やバナナをくれました。後で聞いた話ですが、この国では犯罪がほとんどないらしく、小さな争いごとですら少ないそうです。

サンゴ礁で囲まれたこの美しい国にまた別の環境問題が新たに発生しています。それはごみ処理問題です。昔から、ごみを処分するという概念がなかったこの国は今、ごみで溢れかえっています。このまま放置しておくと、日本の明治時代のようにコレラやペストなどの疫病が蔓延する可能性もあります。このような日本の過去の経験を環境教育として現地の方に教えることも我々にとって重要な責務だと思います。



空港で出迎えてくれたキリバスの子どもたち



打ち寄せる波に砂がえぐられて倒れてしまったヤシの木



ごみが散乱した状態のまち

② 拡大する砂漠 内モンゴル自治区

2013年9月、日本沙漠緑化実践協会が主催する砂漠緑化活動に参加しました。緑化の対象となったのは内モンゴル自治区にあるウランブハ砂漠とクブチ砂漠です。聞きなれない名称ですが、これらは有名なゴビ砂漠のひとつです。

北京からバオトウに降り立ち、バオトウから最初の目的地であるウランブハ砂漠へバスで移動しました。移動の途中、遠くの空が霞んで見えたのですが、これが北京の大気汚染であることはすぐに分かりました。

ウランブハ砂漠に到着すると、早速、緑化活動がスタートしました。スコップで砂漠に穴を掘り、ひたすらポプラの苗を植えていきます。乾ききった砂漠の砂はサラサラで、掘ってもすぐに穴になだれ込んでいきます。日中の気温は40度を超えていましたが、砂漠には日差しを遮るものはありません。このような中、ただひたすらに穴を掘ってはポプラの苗を植えていきました。

最後の目的地であるクブチ砂漠の恩格買（おんかくばい）では、砂漠緑化に成功した緑豊かな町並みを拝見することができました。このような緑化活動は約25年前から鳥



拡大しつつけるモンゴルの砂漠。防砂林として植えたポプラが砂漠の拡大を防ごうとする



植林活動の様子



砂漠に植えたポプラの苗。5日間で1000本植えた



緑あふれる大地となったまち（恩格買）

取大学名誉教授の遠山正瑛先生が始められたのがきっかけだそうです。当時95歳の先生の言葉、「考えていいと思ったことはやろう。やらなかったら物事は進まない。そして、一度始めたらやり続けることだ！」。

今回の緑化活動では砂漠化の現状理解のみならず、いいと思ったことはやり続けるという環境活動にとって最も重要な理念を再確認する旅となりました。

京都光華女子大学キャリア形成学部 高野拓樹



環境教育推進室員 紹介



光華幼稚園
教諭 大西千昭



光華小学校
教諭 重田庸子



京都光華中学校・高等学校
教諭 福竹一女



京都光華女子大学
准教授 高野拓樹

光華女子学園 環境報告書 平成26年度版

平成27年3月

編集・発行 京都光華女子大学 地域連携推進センター 環境教育推進室
光華女子学園 総務グループ

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38

URL : <http://www.koka.ac.jp/crc/> (地域連携推進センターHP)

本環境報告書へのご意見・ご感想をお待ちしております。

お問い合わせ : <http://www.koka.ac.jp/crc/contact.html>



地域連携推進センターHP



学校法人光華女子学園

京都光華女子大学大学院
京都光華女子大学
京都光華女子大学短期大学部
京都光華高等学校
京都光華中学校
光華小学校
光華幼稚園